

地域経済研究センター
調査研究報告書 No.1

佐賀市委託調査

佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ
開催に伴う経済効果の調査

1997年3月

佐賀大学経済学部
地域経済研究センター

目 次

	ページ
[I] 調査の枠組み	1
経済効果測定概念図	2
[II] 96年度バルーン大会経済効果の測定結果	3
佐賀市内における経済効果	4
佐賀市外における経済効果	5
経済効果関連図表	6
[III] 来場者当初消費支出推計	12
[参考] 憩いの広場出店各店の売上動向と意見	18
[参考] 佐賀市内ホテルへの影響（主要ホテル・旅館ヒアリング結果）	21
来場者交通費推計	22
佐賀市以外での来場者消費支出	25
[IV] 当初支出推計基礎データ	26
[V] 佐賀市産業関連表（90年）の推計方法	31
 (資料)	
・「来場者アンケート」質問票	36
・アンケート集計結果	38
・宿泊者アンケート	39

調査分析担当：福島 宏（佐賀大学経済学部 教授）

調査協力：長 安六（同 助教授）

同上及びアンケート分析：池田 智子（同 助手）

〔I〕調査の枠組み

(1) 佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ開催が及ぼす効果

佐賀において毎年行われているインターナショナル・バルーンフェスタは佐賀県の知名度を上げるなど、イメージ・アップに果たした役割をはじめ、地域に及ぼすその経済波及効果も相当なものがあると考えられる。ここでは、想定される効果を定量的経済効果に絞って分析してみる。

なお、イメージアップ効果などの定性的分析については今後の課題とするが、その分析の視点としては、

(a)佐賀県・佐賀市のイメージ向上への寄与

- ・マス・メディアの報道によるPR効果
- ・住民意識の変化（知名度上昇による満足感）
- ・シンボル性の高いイベント開催による地域アイデンティティの形成に寄与

(b)問題点として、当初の新鮮さが薄れ、マンネリ化していく懸念

などについて、意識調査を進め、具体的な対応を考えていく必要がある。

地域周辺の住民の意識を喚起していく上からも、新たな企画を複合的に考えていくべき時がきているようにみられる。

経済効果については新たな投資や消費需要の創出により、誘発される生産増（サービス生産を含む）によって、所得増効果が生じ、それが新たな消費へと波及していく。それを計測・推計することで全体の経済効果をみるのが目的である。

当イベントは嘉瀬川河川敷を使って、毎年催しており、その内容から新たな投資を伴う支出はJR臨時駅などごく限られたものになる。すなわち、新規需要の大部分は消費的支出になっているのが特徴的である。

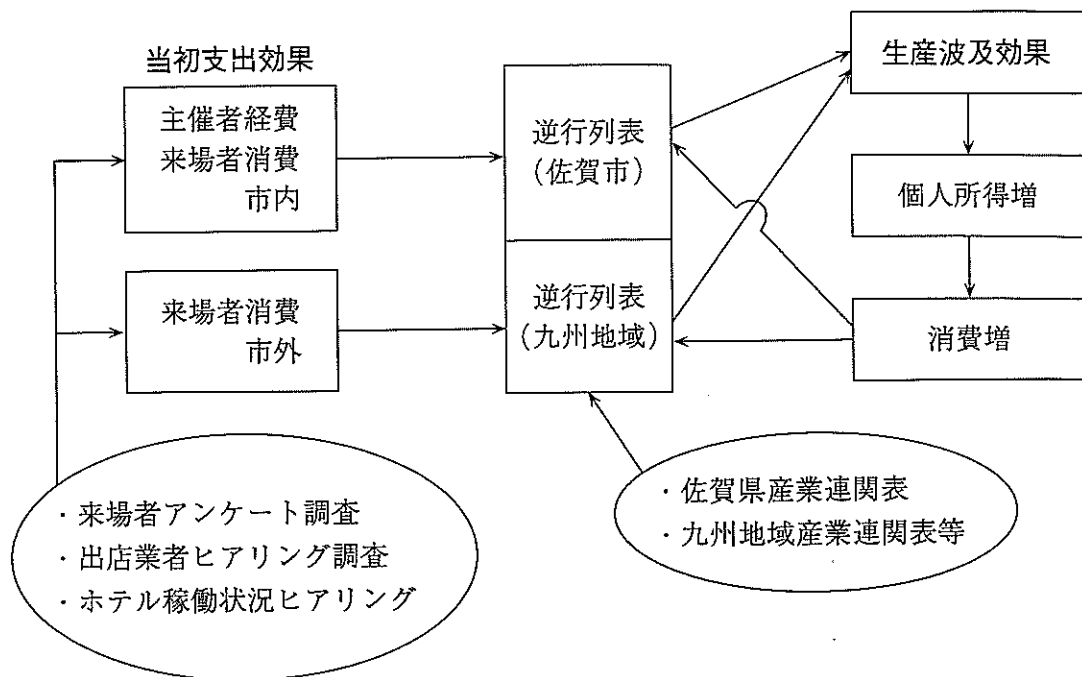
調査の対象となる地域範囲については佐賀市内と市外とに分け、市内・市外での当初の直接的支出に伴う波及効果をそれぞれ別個に推計。市内については、佐賀県の産業連関表（90年）から試算作成した佐賀市の産業連関表をベースに推計し、また市外については、九州地域の産業連関表をもとに効果を算定した。

(2) 当初支出効果

主催者の運営費支出や観客の消費支出など当初支出効果については、主に出店業者や市内ホテルの営業関係者などのヒアリング調査を基に推計した。この数字が、全体の波及効果を推計する上での基礎になるものであるため、多様な角度から検討を加え、推計の根拠となるデータと判断の材料を可能な限り収集した。

また出店業者等のヒアリングの結果、様々な要望など生の声を聞くことができたことも、参考になった。

経済効果測定概念図



アプローチ

1) 基本データの収集

a) 当イベントに関わるデータおよび影響判断調査

(出店業者・ホテル業者ヒアリング調査、J R、高速道利用状況調査等)

b) 観客行動調査 (アンケート調査)

2) 佐賀市産業連関表の推計と逆行列表の作成

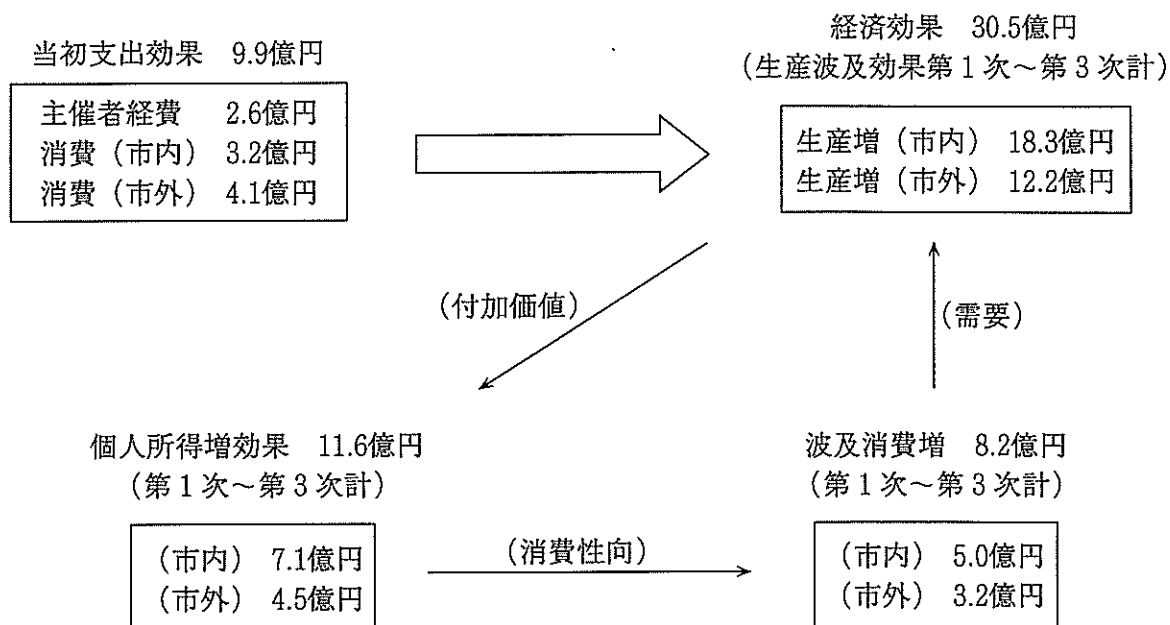
佐賀県の産業連関表 (90年) や県民所得推計等をベースに、佐賀市の産業連関表を推計し、9部門逆行列表を作成する。

3) 同様に、「九州地域の産業連関表 (90年)」(九州通商産業局) をベースに、13部門逆行列表を作成する。

4) 波及効果の分析

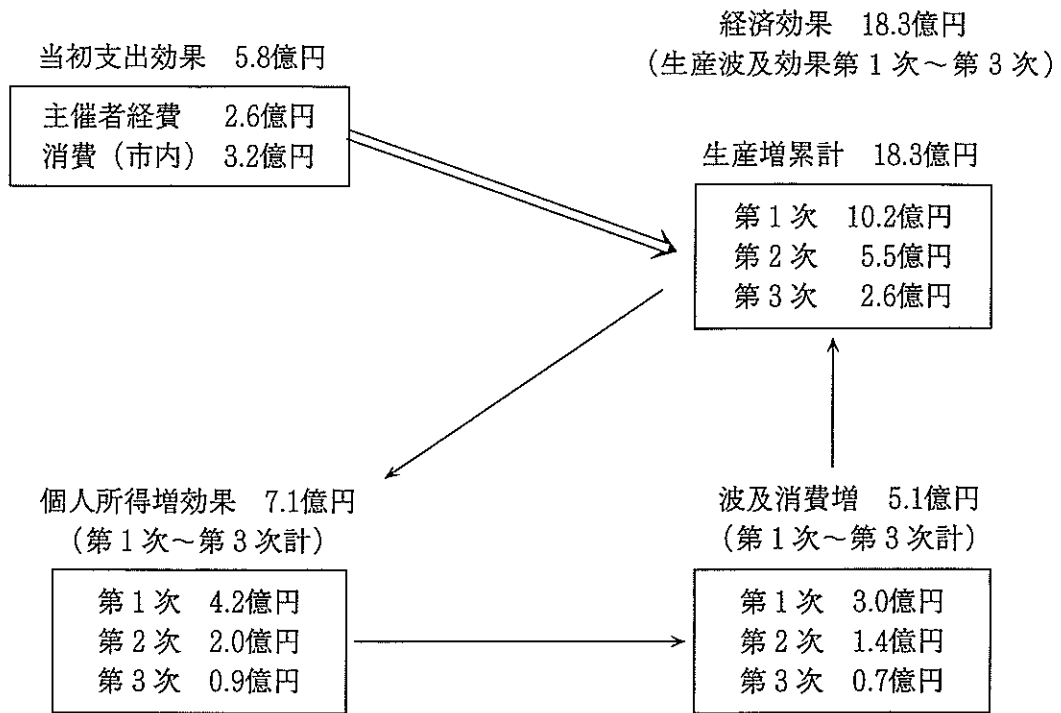
主に佐賀市内における支出か市外における支出かを推計し、佐賀市内における支出は佐賀市の産業連関表逆行列表により、波及効果を算出する。佐賀市外の支出は「九州地域の産業連関表 (90年)」より導出した逆行列表により、波及効果を算出する。

[II] 96年度バルーン大会経済効果の測定結果



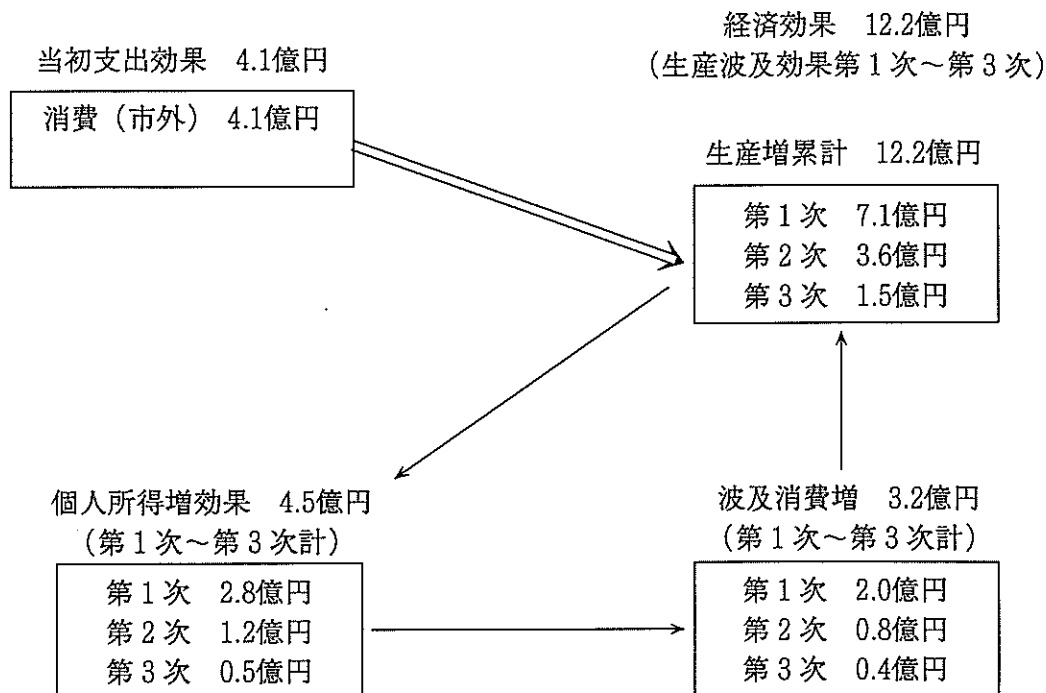
- ・96年度バルーン大会の経済効果を測定してみると、主催者側の当初経費として、約2.6億円支出され、期間中の来場者により、飲食、みやげ物、宿泊、交通費等に、佐賀市内・市外を合わせ、約7.3億円の消費支出がなされたと推定される。すなわち当イベントに伴う主催者・来場者による当初支出としては9.9億円（約10億円）となったものと見込まれる。
- ・この当初支出に伴い、佐賀市内、市外において、生産が誘発され、所得が生まれ、新たな消費需要が起こる。この波及過程を第3次波及効果まで辿り、合計してみると、累計生産波及効果は30.5億円に達する。
- ・結論として、当大会の経済効果としては、この累計生産波及効果30.5億円になる。なお、この生産増効果を別の側面から見れば、所得増効果（11.6億円）、消費増効果（8.2億円、当初支出を除く）が得られたことになる。（ただし、これらを各々新たに経済効果として加算することはできない。一家の収入に家族の消費支出を加算しても無意味であるのと同様である。）

佐賀市内における経済効果



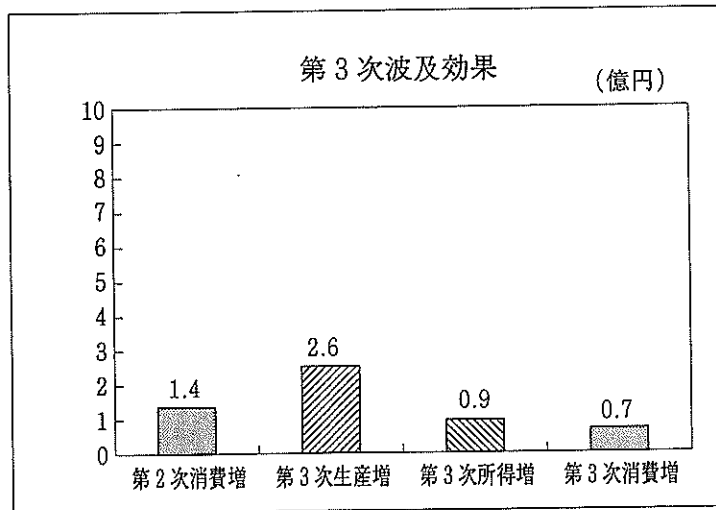
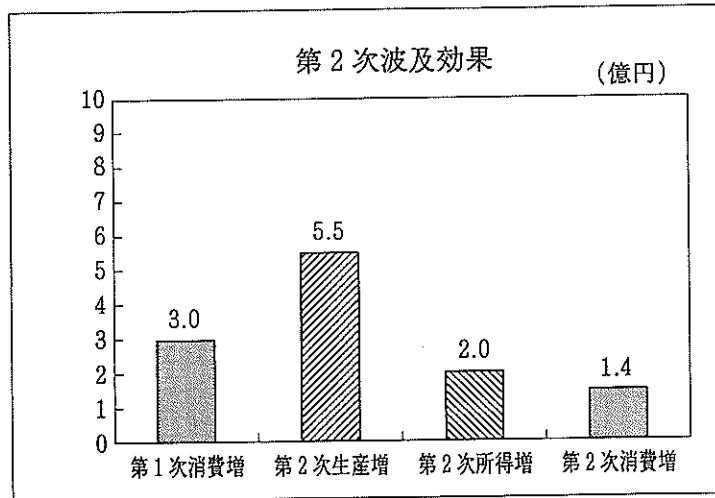
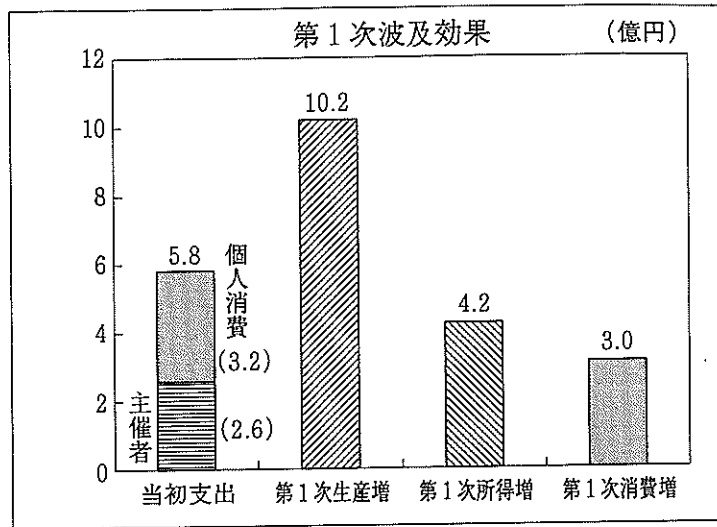
- 佐賀市内における経済効果は、第1次～第3次にわたる生産波及効果を累計した18.3億円と推計される。
- 当初支出は、主催者による経費2.6億円、来場者による市内消費（飲食、みやげ物、宿泊交通費等）で3.2億円で、計5.8億円に達したものと見込まれる。
- この当初支出により、第1次波及効果として誘発された生産は10.2億円に上ると推計される。すなわち、佐賀市内における第1次的な経済効果はおよそ10億円になるという推計結果になる。
- さらに、この生産増10.2億円による佐賀市内の第1次個人所得増効果は4.2億円、この所得増による第1次波及効果としての消費増は、3.0億円と推計。この消費増3.0億円は通常の消費需要の構成と同様に各生産部門に分割され、生産の第2次波及効果を誘発する。
- 同様な波及過程を経て、第1次～第3次の個人所得増加累計額は7.1億円、消費増加累計額は5.1億円に達すると推計された。

佐賀市外における経済効果

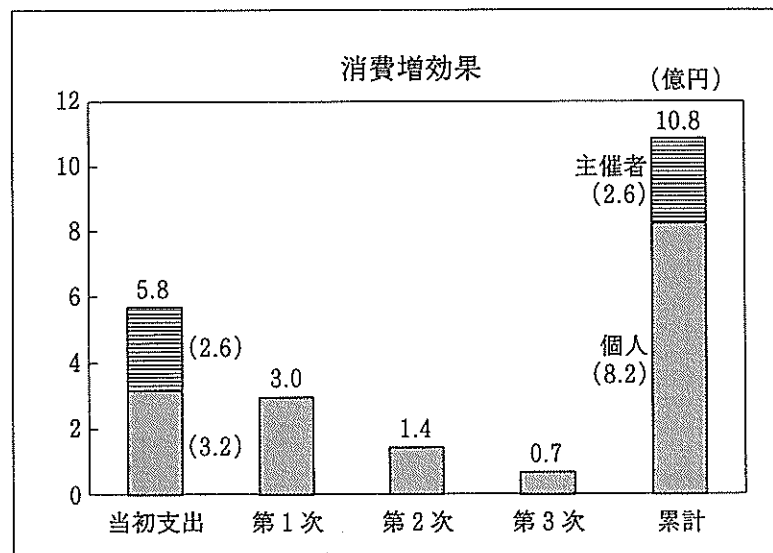
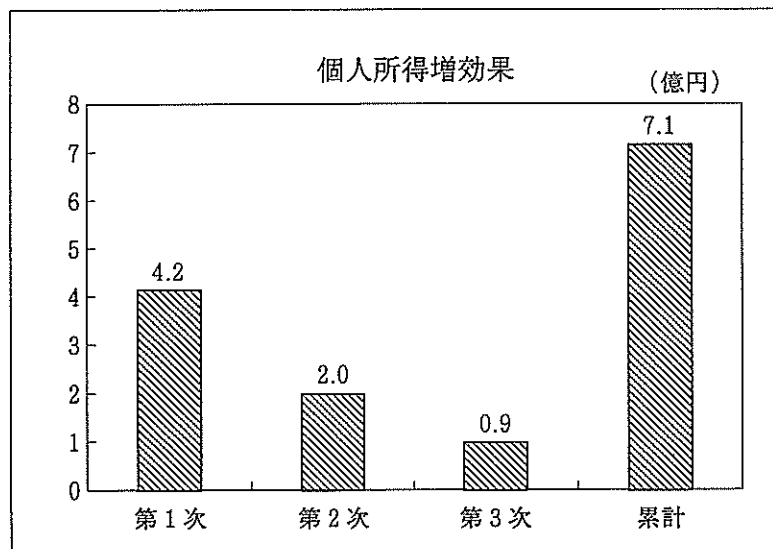
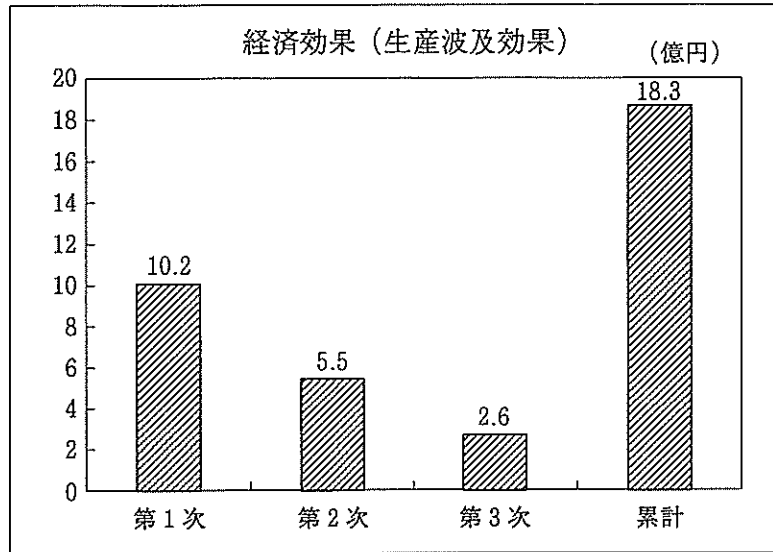


- 佐賀市外における経済効果は、第1次～第3次にわたる生産波及効果を累計した12.2億円と推計される。
- 当初支出は、来場者による市外消費(飲食、みやげ物、宿泊費、高速道料金やJR料金などの交通費等)によるもので、4.1億円と見込まれる。
- この当初支出により、波及効果として誘発された生産により、第1次～第3次累計4.5億円の個人所得増効果が得られ、この所得増により、消費増加累計額は3.2億円に達すると推計された。

佐賀市内經濟效果 (波及過程)

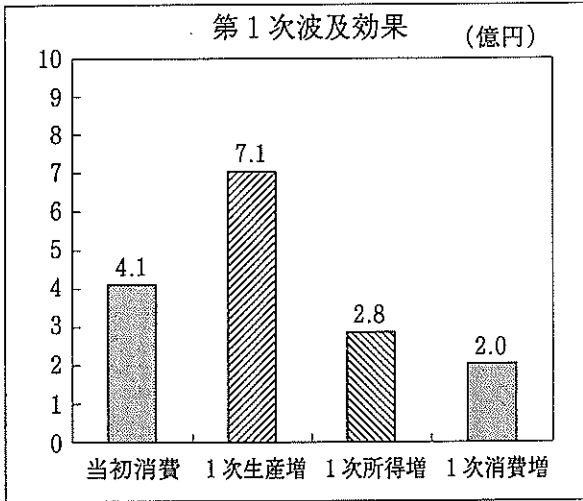


佐賀市内経済効果（生産・所得・消費別波及効果）

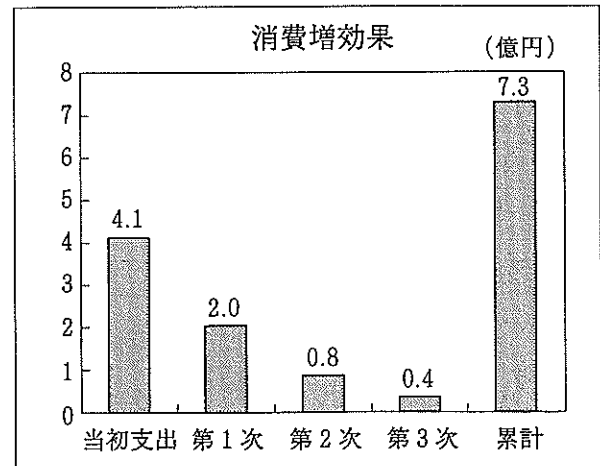
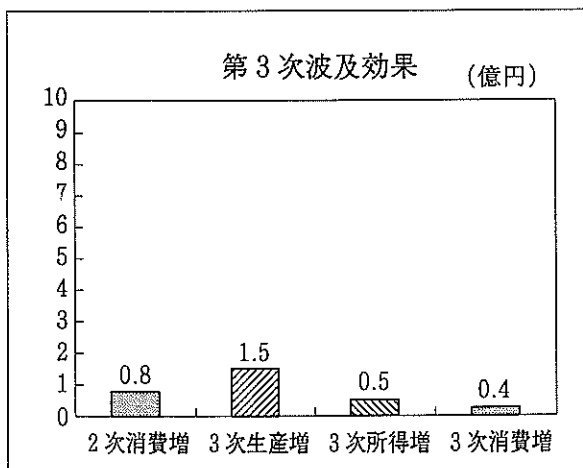
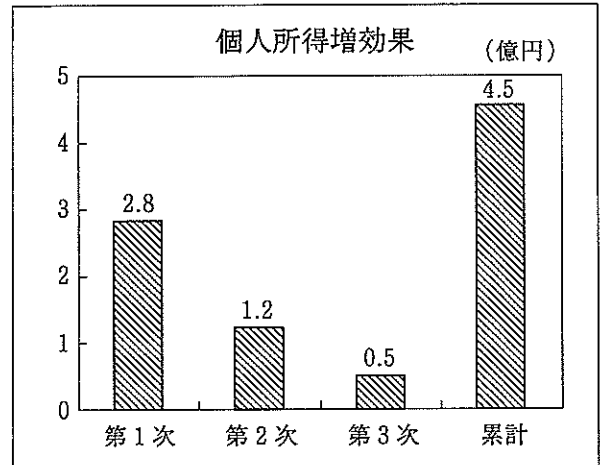
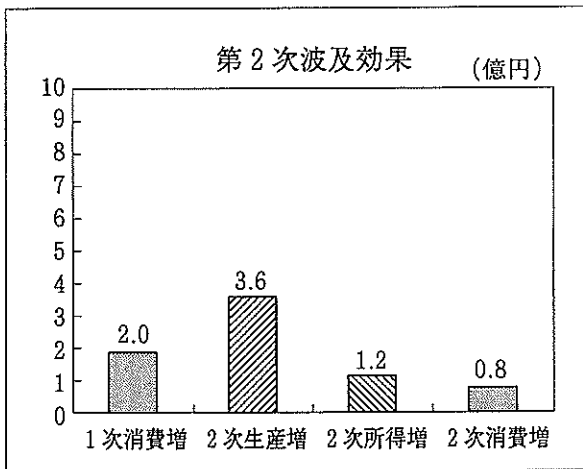
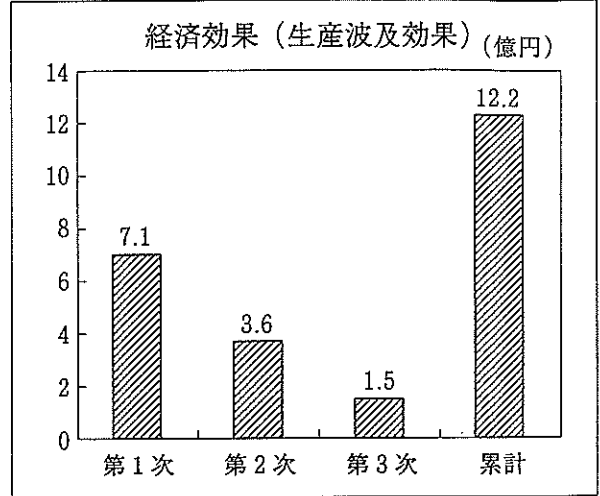


佐賀市外経済効果

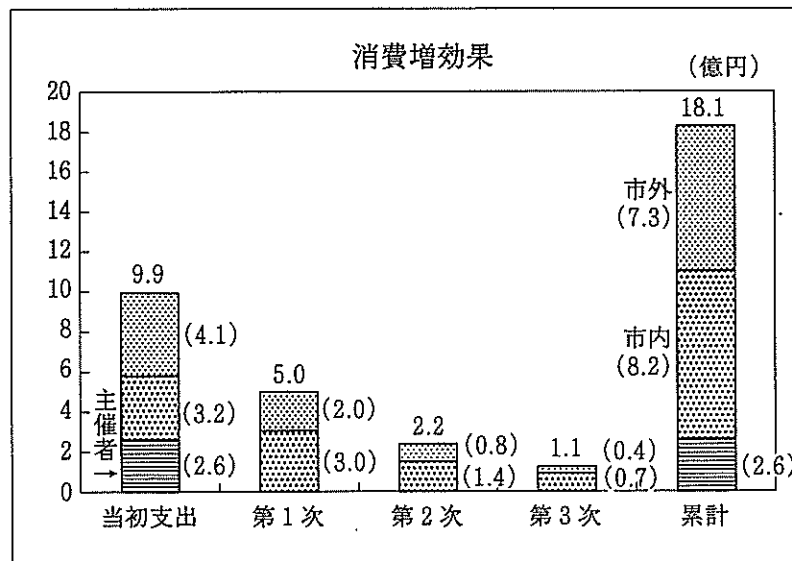
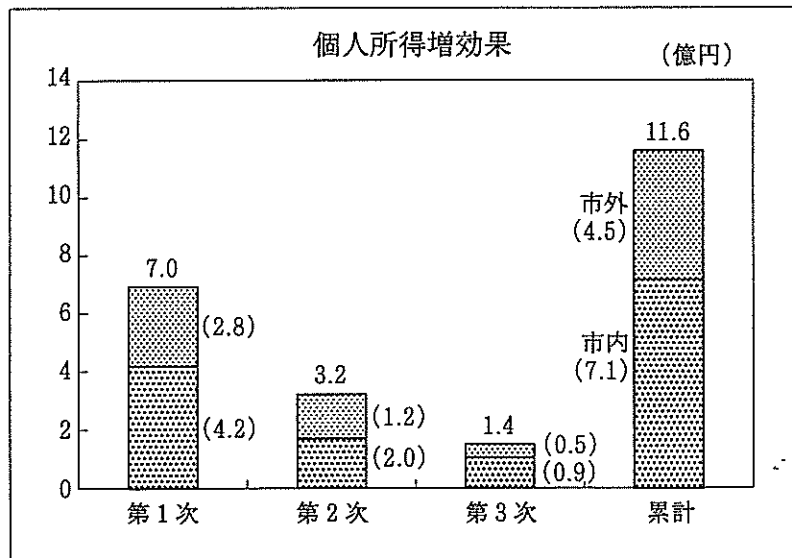
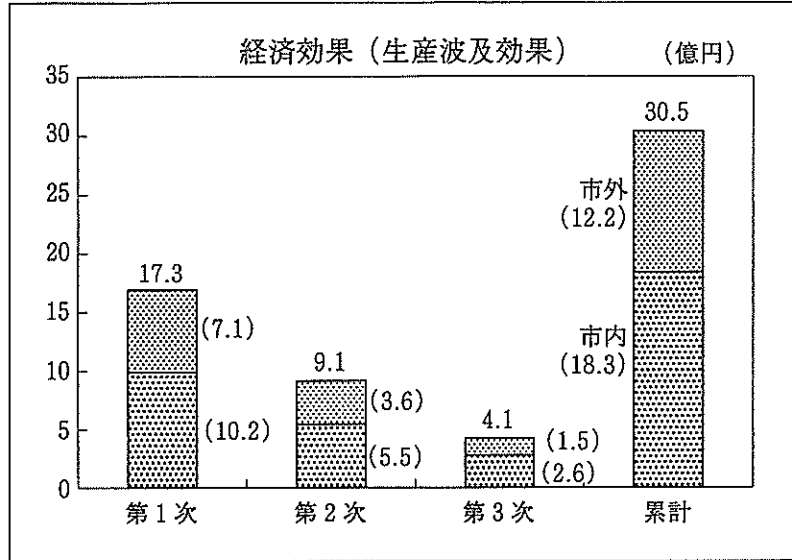
波及過程



生産・所得・消費別波及効果



佐賀市内・市外合計経済効果



バルーン大会経済効果波及過程 (市内)

(単位：億円)

	主催者支出	生産波及効果 (a)	当初個人消費	生産波及効果 (b)	第1次生産波及 効果計 (a+b)	雇用者 所得係数 (雇所得/生産)	第1次雇用者 所得増加額 (注1)
農林水産	0.00	0.1646819	0	0.1398662	0.3045481	0.42975589	0.13088136
建設	0.26	0.2913167	0	0.0361309	0.3274476	0.27201714	0.08907136
製造業	0.13	1.0757377	0	0.8671144	1.9428521	0.18018160	0.35006619
卸・小売	0.13	0.3477862	0.94	1.1702629	1.5180491	0.49354556	0.74922639
金融保不動	0.05	0.2136948	0	0.2146726	0.4283674	0.21082608	0.09031102
運輸・通信	0.21	0.4058511	0	0.2302970	0.6361481	0.34357270	0.21856311
電ガス水道	0.00	0.1199530	0	0.1399232	0.2598762	0.15904374	0.04133169
公務	0.00	0.0044414	0	0.0053237	0.0097651	0.68258027	0.00666547
サービス	1.82	2.1790771	2.23	2.6119619	4.7910390	0.41520536	1.98926510
計	2.60	4.8025400	3.17	5.4155527	10.2180927	—	3.66538168
個人企業所得増	—	—	—	—	—	—	0.53644987
個人所得計	—	—	—	—	—	—	4.20183154
消費支出計	—	—	—	—	—	—	2.97174069

	消費増需要 部門分割 構成比	第1次波及 部門別消費増 (注2)	第2次波及 生産増	第2次雇用者 所得増加額	第2次波及 消費増加額	第3次波及 生産増	第3次雇用者 所得増加額
農林水産	0.01811526	0.05383387	0.30805899	0.13239016	0.02553009	0.14609340	0.06278450
建設	0	0	0.04696384	0.01277497	0	0.02227206	0.00605838
製造業	0.23316363	0.69290184	1.71672942	0.30932305	0.32860067	0.81413903	0.14669287
卸・小売	0.16245586	0.48277669	0.70250659	0.34671901	0.22895125	0.33315561	0.16442747
金融保不動	0.16705038	0.49643041	0.73212682	0.15435143	0.23542637	0.34720266	0.07319938
運輸・通信	0.05710013	0.16968676	0.38703640	0.13297514	0.08047198	0.18354753	0.06306192
電ガス水道	0.02141244	0.06363222	0.18933386	0.03011236	0.03017684	0.08978939	0.01428044
公務	0.00198786	0.00590740	0.00875416	0.00597542	0.00280152	0.00415156	0.00283377
サービス	0.33871444	1.00657149	1.39670004	0.57991735	0.47735486	0.66236881	0.27501908
計	1.00000000	2.97174069	5.48821010	1.70453889	1.40931358	2.60272004	0.80835782
個人企業所得増	—	—	—	0.28813103	—	—	0.13664280
個人所得計	—	—	—	1.99266992	—	—	0.94500062
消費支出計	—	—	—	1.40931358	—	—	0.66835064

(第3次消費増)

(注1) 雇用者所得増 = 生産増 × 雇用者所得係数、個人企業所得 = 生産増計 × 0.0525 (佐賀県90年度)

(注2) 消費増計 = 個人所得計 × 消費性向 (0.707248887) (脚注参照)

部門別消費増 = 消費増計 × 部門構成比

(脚注) 消費性向(対税引前所得比)の算出データ

(出所) 平成2年度「県民所得推計結果報告書」(佐賀県)

(平成2年逆行列表に合わせ、平成2年度の計数を使用)

・消費性向 = 民間最終消費 / 個人所得

・個人所得 = 雇用者所得 + 家計純受取 + 個人企業所得 (持家を除く)

(参考) 平成2～5年度加重平均消費性向 = 0.708334404

生産・所得・消費別 経済効果

(単位：億円) (当初+効果)

	当初支出	第1次効果	第2次効果	第3次効果	1～3次累計	合計
生産増	—	10.2180927	5.4882101	2.6027200	18.3090229	18.3億円
所得増	—	4.2018315	1.9926699	0.9450006	7.1395021	7.1億円
個人消費	3.17	2.9717407	1.4093136	0.6683506	5.0494049	8.2億円
主催者支出	2.60	—	—	—	—	2.6億円

經濟効果波及過程（九州地域）

（単位：億円）

	佐賀市外 当初個人消費	第1次 生産波及効果	雇用者 所得係数	第1次 雇用者所得増	部門別 消費構成	第1次 部門別消費額
農林水産	0	0.14985711	0.08905251	0.01334515	0.01725448	0.03473649
鉱業	0	0.04665913	0.22875309	0.01067342	0.00000008	0.00000016
製造業	0	1.29955045	0.14446051	0.18773372	0.24981897	0.50293236
建設	0	0.03304433	0.27017764	0.00892784	0	0
電ガス水道	0	0.14576716	0.18972006	0.02765496	0.02305008	0.04640413
商業	0.8	1.04201825	0.49865646	0.51960913	0.15294144	0.30789975
金融保険	0	0.13962387	0.45351344	0.06332130	0.03343370	0.06730829
不動産	0	0.10390493	0.05227764	0.00543190	0.12505349	0.25175609
運輸	0	0.13740259	0.44315957	0.06089127	0.04559586	0.09179300
通信放送	0	0.09208416	0.39603708	0.03646874	0.01802233	0.03628232
公務	0	0.00257080	0.66324393	0.00170507	0.00180898	0.00364181
サービス	3.33	3.78901801	0.40605167	1.53853708	0.33292764	0.67024567
分類不明	0	0.06995463	0.02864221	0.00200365	0.00009297	0.00018717
合計	4.13	7.05145542	—	2.47630325	1	2.01318725
個人企業所得増 [生産増×0.0525]	—	—	—	0.37020141	—	—
個人所得計 [雇用者所得+個人企業所得]	—	—	—	2.84650465	—	—
消費支出計 [個人所得計×消費性向 (0.70724889)]	—	—	—	2.01318725	—	—

	第2次 生産波及効果	第2次 雇用者所得増	第2次 部門別消費額	第3次 生産波及効果	第3次 雇用者所得増	第3次 消費額
農林水産	0.1611980	0.01435509	0.01456520	0.06759121	0.00601917	—
鉱業	0.0415866	0.00951306	0.00000007	0.01743749	0.00398888	—
製造業	1.2381701	0.17886668	0.21088231	0.51917154	0.07499979	—
建設	0.0259340	0.00700680	0	0.01087428	0.00293799	—
電ガス水道	0.1128625	0.02141228	0.01945751	0.04732386	0.00897829	—
商業	0.4244786	0.21166898	0.12910406	0.17798621	0.08875397	—
金融保険	0.1557671	0.07064248	0.02822274	0.06531401	0.02962078	—
不動産	0.2965981	0.01550545	0.10556272	0.12436521	0.00650152	—
運輸	0.1785923	0.07914488	0.03848931	0.07488473	0.03318588	—
通信放送	0.0696081	0.02756741	0.01521338	0.02918708	0.01155917	—
公務	0.0049511	0.00328379	0.00152703	0.00207602	0.00137691	—
サービス	0.89288879	0.36255898	0.28103770	0.37439319	0.15202298	—
分類不明	0.03562724	0.00102044	0.00007848	0.01493870	0.00042788	—
合計	3.63826251	1.00254631	0.84414051	1.52554353	0.42037320	0.35395277
個人企業所得増	—	0.19100878	—	—	0.08009104	—
個人所得計	—	1.19355509	—	—	0.50046423	—
消費支出計	—	0.84414051	—	—	0.35395277	—

生産・所得・消費別 經濟効果（九州地域）

（単位：億円）

	当初支出	第1次	第2次	第3次	累 計
生産増	—	7.05145542	3.63826251	1.52554353	12.2152615
所得増	—	2.84650465	1.19355509	0.50046423	4.54052398
個人消費	4.13	2.01318725	0.84414051	0.35395277	7.34128053

[Ⅲ] 来場者当初消費支出推計

<市内支出>

(1) 来場者会場内みやげ物類・飲食費購入費推計

憩いの広場出店推定売上合計 5,720万円

+) バルーン物産館 2,420万円

+) 究極の逸品館 1,190万円

会場内出店推定売上高合計 9,330万円

(うちみやげ物類 1,730+2,420+1,190=5,340万円、飲食費 3,990万円)

(2) 来場者市内会場外みやげ物類・飲食費購入費推計

みやげ物類 550万円

飲食費 1,670万円

合計 2,220万円

(3) 来場者消費支出推計 (会場内、市内会場外合計) (支出形態)

みやげ物購入代…………… 5,900万円 (小売り)

飲食費…………… 5,700万円 (サービス)

交通費……………13,200万円 (サービス)

交通機関 (JR+バス) …… 9,600万円

高速道料金…………… 3,600万円

ガソリン代…………… 3,500万円 (小売り)

宿泊費 (市内) …………… 3,400万円 (サービス)

合計 …………… 31,700万円

} (注)

来場者市内当初支出計 約3.17億円 (飲食・みやげ代+交通費・宿泊費関係)

(うち支出形態としては「小売業売上げ」にみやげ物+ガソリン代=5,900+3,500=9,400万円を、また「サービス支出」には飲食費+交通費+高速道料金+宿泊費 = 5,700+13,200+3,400=22,300万円を当てる)

(3) 主催者当初経費支出効果

運営費 約2.6億円

・佐賀市補助金 約1.6億円

・企業協賛金 約1億円

バルーン・フェスタ開催にともなう当初支出効果

運営費支出	……………2.6億円
来場者消費支出	……………3.17億円
合計	約5.8億円

(注) 宿泊費推計

市内ホテル(収容人員 2,297人)の稼働率9割(ヒアリング結果の判断)の半分がバルーン効果とみて(すなわち期間中1泊1,034人の効果)、
平均単価(6,500円)として、
5泊×2,297人×0.9×0.5×6,500円=3,359万円(約3,400万円)

(注)

ガソリン代支出額(佐賀市・近隣への投下額)推定

来場者全体の71.8%が自家用車を利用。(アンケート結果)

- ・実質来場者数は推定53万人([注] p.28)

自家用車利用人数=53万人×0.718=38.1万人

- ・来場車数

1グループ平均2.8人([注] アンケート結果)から、
来場車数=38.1÷2.8=13.6(万台)・・・推定約13.6万台

- ・出発地域構成(アンケートによる)

中国地方2.5%、九州94.3%(うち、佐賀県:九州の51.3%、福岡:同31.7%、長崎:同10.9%、熊本:同3.5%、大分:同1.7%、鹿児島:同0.9%)。佐賀県内のうち、佐賀市:46.9%、佐賀市近隣:24.8%、佐賀県その他28.3%。(関東・関西地域からの割合を除く構成で、合計96.8%)

- ・これらより、車利用者の佐賀市および佐賀市近隣からの割合は、

$(0.469+0.248) \times 0.513$ (佐賀県) $\times 0.943$ (九州) $\times (1/0.968) = 0.356$ (35.6%) となり、

この地区からの平均走行距離を往復30キロとみて、延べ走行距離は、

13.6 万台(来場者車台数) $\times 0.356$ (佐賀市+佐賀市近隣の割合) $\times 30$ (キロ) = 約145 (万キロ)

- ・ガソリン代(佐賀市・佐賀市近隣からの車両分)

キロ当たり10円として推定約1,450万円

- ・一方、佐賀市・佐賀市近隣以外の地域からの車利用来場者の割合は、残り64.4%として、

主要な出発地である福岡と長崎で上記構成比より3:1の割合とみる。佐賀市までの片道走行距離は、
福岡:50キロ、長崎:80キロとして、加重平均走行距離は、

50 (キロ) $\times 3/4 + 80$ (キロ) $\times 1/4 = 37.5 + 20 = 57.5$ (キロ)

- ・来場した車のうち佐賀市・佐賀市近隣以外からの片道延べ走行距離は、

57.5 (キロ) $\times 13.6$ 万台 $\times 0.644$ (出発地域の割合) = 503.6 (片道約500万キロ)

ガソリン代として支出されるケースを考えると、佐賀市・佐賀市近隣内で支出(給油)されるのは、往復のドライブに対し、対象車両の5分の1の割合とみる。(出発地、往路の途中、目的地佐賀市周辺、帰路の途中、帰着地での給油という各ケースでそれぞれ5分の1の確率とみる)

したがって、これらから、佐賀市・近隣以外から来場し、市内・近隣に投下されたガソリン代支出を推計すると、

$1,000$ 万(往復キロ) $\times 10$ 円(/キロ) $\times 1/5 =$ 約2,000万円

- ・ガソリン代合計(佐賀市内・近隣での支出)

$1,450$ 万円 $+ 2,000$ 万円 = 約3,500万円

(佐賀市内・近隣以外での関連車両ガソリン代支出は、推定8,000万円(1億円-2,000万円))

来場者支出額推計（みやげ物類および飲食関係）

(1) 憩いの広場出店売上高推計

・出店数55（技術指導の「アマチュア無線」を除く）のうち、フィルム販売店と酒販店は金額が大きいため別途計算するとして、53店をみやげ物類販売14店と飲食関係39店に分け、それぞれの合計売上高＝平均売上高×店数として推計。

〈みやげ物類〉

73.8万円×14店＝1,033万円（約1,030万円）

〈飲食関係〉

102.3万円×39店＝3,989万円（約3,990万円）

・フィルム店と酒販店の計700万円を合わせ、憩いの広場出店55店合計で推定売上高 約**5,720万円**

(2) 来場者会場外支出推計

〈みやげ物類〉

・会場でのアンケート調査によれば、みやげ物の購入場所については、「会場内」が98%に対し、「佐賀市内・その他」が5%（重複あり）の割合となっている。選択範囲の広い会場外での1人当たり支出額を平均単価が低めの会場内の2倍とみて、会場外の売上げを以下の通り推計する。

バルーン会場でのみやげ物支出（＝飲食以外の消費）は、物産館（2,422万円）、逸品館（1,193万円）と憩いの広場（1,730万円）とを合わせ、5,345万円になる。これより、

会場外みやげ物支出計＝会場内みやげ物支出計×（会場外みやげ物支出／会場内同支出）×2

会場外みやげ物支出計＝5,345万円×（5／98）×2＝545万円

来場者の会場外でのみやげ物購入費推計額は約**550万円**

〈飲食関係〉

・アンケートによれば、飲食者の88%はバルーン会場で飲食したが、7%の人が佐賀市内で飲食しているという。選択の幅が広い市内会場外の1人当たりの支出額を会場内の2倍とみて、

バルーン会場外飲食費＝バルーン会場飲食費計3,990万円×（7／88）×2＝635万円

さらに、市内ホテル宿泊者の滞在中の飲食費を推計する。

・市内宿泊者の飲食費を1人1回1,000円、1日2回とみる（1回は会場での飲食とみなし計算外）
1,034人（注）×0.1万円×2回×5日＝1,034万円

したがって、来場者の会場外飲食支出＝635＋1,034＝1,669（約1,670万円）

来場者の会場外での飲食費推計額は約**1,670万円**

（注）

市内ホテル（収容可能人員 2,297人）の稼働率9割（ヒアリング結果の判断）の半分がバルーン効果とみると、バルーン大会目的の宿泊者は、1泊当たり1,034人になる（2,297×0.9×0.5）。

(3) 来場者会場内外みやげ物および飲食費支出推計額合計

- ・結局、来場者による、みやげ物+飲食費の合計額は会場内・会場外を合わせて、
2,422 (物産館)+1,193 (逸品館)+5,720 (憩い広場)+ [550+1,670] (場外支出)=11,555万円
来場者会場内外みやげ物+飲食費支出推計額は 約1億1,550万円になる。
その内訳は、みやげ物類が約5,890万円、
飲食関係は3,990+1,670=約5,660万円である。

会場内出店販売動向

(1) バルーン物産館 (佐賀玉屋主催)

96年売上高 2,420万円

出店業者 (34社) 商品内容 (食品中心)

・あまぐり	・パン	・中華惣菜	・あめがた
・めんたいこ	・海産物	・すだちこんにゃく	・さが錦
・おこわ	・むつごろう	・マンダリンゼリー	・コーヒー
・せんべい	・ちりめんいりこ	・ゴマ	・のり
・ハム	・ぼたもち	・茶	・惣菜
・陶器	・まんじゅう	・乳製品	・ガラス
・小城羊羹	・有明珍味	・花	・あめゆ
・うどんそば	・竹		

(2) 佐賀究極の逸品館

96年売上高 1,190万円 (前年比16.3%増)

業者：商店、組合、農協等

品目：(農水産物および同加工品中心)

茶、醤油、菓子、明太子、羊羹、花卉、寿司、甘露煮、レンコン、健康食品 焼き肉、うどん、ミカン、漬け物

(3) 憩いの広場 出店55店の主要品目

みやげ物店	飲 食 店	
(1) 靴下	(1) 焼団子	(21) たこ焼・お好み焼
(2) 玩具	(2) 弁当・豚汁	(22) うどん・おでん
(3) テレホンカード	(3) 串焼・お好み焼	(23) パン・フランクフルト
(4) せんべい	(4) 焼とうもろこし	(24) お好み焼
(5) フィルム	(5) お好み焼	(25) 焼き鳥
(6) 風船	(6) おこわ・揚げ物	(26) 焼き鳥
(7) 酒類	(7) たこ焼	(27) たこ焼・クレープ
(8) まんじゅう	(8) たこ焼	(28) 揚げ物・フランクフルト
(9) 雑貨・玩具	(9) クレープ・お好み焼	(29) うどん・麺類
(10) 農水産物	(10) たこ焼き	(30) たこ焼
(11) たばこ	(11) いもスティック	(31) 唐揚げ
(12) 玩具・くじ	(12) たこ焼	(32) お好み焼
(13) 玩具・焼きいも	(13) うどん・おでん	(33) うどん
(14) 食肉加工品	(14) たこ焼・うどん	(34) うどん・おでん
(15) 玩具	(15) うどん・弁当	(35) 肉まん・うどん
(16) 婦人雑貨	(16) 麺類・揚げ物	(36) うどん・ぶたまん
(みやげ物関係16店)	(17) ラーメン・おにぎり	(37) ラーメン・おでん
	(18) 天津甘栗・焼団子	(38) うどん・豚汁
	(19) ラーメン	(39) やまめ塩焼
	(20) 梅ヶ枝餅・たこ焼	(飲食関係計39店)

(3-2) 憩いの広場 出店各店売上動向

出店各店の売上高 (ヒアリング調査による推計)

出店品目	売上高 (万円)
[1] みやげ物類 (14店中8店調査)	
① 菓子	30
② まんじゅう	30
③ ハム	35
④ 衣料品 (ソックス等)	100
⑤ 雑貨 (ガス入り風船)	130
⑥ 特産物 (久保田町)	160
⑦ ビニール玩具 (クジ)	65
⑧ 甘栗、風船	40
8店合計売上高	590
	(1店平均 73.8万円)
[2] 飲食関係 (39店中11店調査)	
① お好み焼き	130
② たこ焼き	70
③ そば	120
④ うどん	100
⑤ フランクフルト	70
⑥ おでん	150
⑦ ラーメン	140
⑧ うどん、たこ焼き	100
⑨ うどん、弁当	100
⑩ うどん	85
⑪ 弁当	60
11店合計売上高	1,125万円
	(1店平均 102.3万円)
[3] 多額売上店 (2店)	
① フィルム	300万円強
② 酒類販売 (地酒、ビール等)	400万円
2店合計	700万円強

[参考] 憩いの広場出店各店の売上げ動向と意見

(1)A店（飲食）

売上高：約100万円

客単価平均：400円

採算：トントン

出店の動機：口コミで知り応募。売上げ増が目的でPR効果は全く期待せず。

- ・統一値段を話し合いで決めていたが、他店が安売りして客がそちらに流れた。
- ・10年前に比べ売り上げが減っている。客は年々減る傾向。
- ・小間料の5日間で15万円は高い。
- ・場所はクジで決めたが、グルメも一般（7万円）も同じ機会であることには不満。
- ・競技中止の際も何か客の引き留め策が必要。（数年前レーサーがきたときは若い客が増加。）

(2)B店（飲食）

売上高：約70万円（前年比130%）

客単価平均：約380円

採算：実質20%の利益率（但し、出店のための応援があり、新規の人件費は生じていない）

出店の動機：地域に密接に関わることに意味があり、儲け主義ではない。

- ・協賛金を含め、採算にメドがつけば出店を継続。イメージを浸透ということで最初の頃はバルーンのスポンサーも考えたが、今は考えていない。
- ・当初に比べ出店業者が増加し、採算が厳しくなっている。
- ・平日は客がほとんどいないため品揃え程度。土日に集中。
- ・要望を言っても運営にどこまで反映されるのか疑問。
- ・今後も採算を割らなければ出店を継続。

(3)C店（飲食）

売上高：130万円

客単価平均：約400円

採算：確保

出店の動機：地元の客が強く勧めたため。今年も申し込み予定。

- ・従来は大体200万円の売上げを確保。昨年は23日の祭日が土曜と重なったのが影響したのでは。
- ・かつて清水アキラ（物まね）、中島（レーサー）が来たときは人が集まった。

(4)D店（食品）

売上高：約35万円（例年よりは良い）

採算：トントン

出店動機：知名度を高めること。宣伝が主体で利益追求ではない。

- ・来場者にチラシを配って、出店している店の名前・種類・場所が分かるようにしたら良い。大して費用はかからないはず。
- ・小間料7万円は高い。今年の出店は場所代がいくらかによって決める。
- ・イベントはマンネリ化。違ったイベントの組み合わせで客を呼ぶことも必要。

(5)E店（食品）

売上高：100万円強

客単価平均：450円

- ・初めの頃のいいときの半分以下というところが多い。場所代が高く不満。

(6)F店（食品）

売上高：約30万円

客単価平均：約550円

出店動機：主催者の勧誘

- ・最初の頃は20店舗程度で、1店舗当たりの売上げが多かった。
- ・バルーン駅ができてから家族連れも弁当持ちが多くなったようだ。来場者は買い物目的ではない。段々ムダな消費はしなくなってきた。
- ・7万円の小間料を払うための利益を上げるにはかなりの売上げが必要。
- ・出店業者は皆言っているが、テナント料がよそよりも高い。1年中各地のイベントを回っている業者は同時期に他のイベントがあればそちらに行くといっている。2カ月前に返事を出し、前金で支払い、日曜・祭日に雨でも降れば無駄になる。お天気次第のリスクがある。

(7)G店（飲食）

売上高：約70万円

客単価平均：約500円

採算：ぎりぎり

- ・土日の天気次第で良ければ何とかなるが、年々競合がきつくなる。

(8)H店（飲食）

売上高：約130万円

客単価平均：約400円

採算：100万円台必要

- ・過去のピーク時で売上げ150万円位までいった。
- ・3年前は赤字になったことがあった。平日はダメだが、土日も雨だとダメ。
- ・初めての出店業者は1年で止めていくのが多い。道具をこのイベントのために用意すると採算に合わない。早起きすると5～6万円は売上が違う。
- ・大会がある限り出店を予定。
- ・小間料15万円は高くない。大会運営にはそれだけ経費がかかるはず。

(9)I店（飲食）

売上高：約150万円

客単価平均：500円

- ・初めて出店したが思った以上に手元に残る。出店場所が良かった（クジ運）。
- ・今年も出店予定。

(10)J店（衣料品）

売上高：約100万円

単価：100円

出店動機：地域のイベントに協力。宣伝の必要はなく、また利益を求める訳ではない。

- ・見に来る人は買い物か目的ではないから財布の中身が少ないのではないか。

(11)K店（酒類）

売上高：400万円程度

採算：若干の利益（日当が出る程度。300万円台に乗せないと赤字）

出店動機：利益が目的ではない。イベントへの協力。

- ・お天気次第のバクテ的要素。休日の天気が悪くて100万円もない時もあった。場所の良し悪しも大きい。去年（96年）は良かった。

(12)L店（雑貨）

売上高：約65万円

採算：若干の利益

- ・初めて出店。売上げは思ったより少ない。100万円はゆくとみていた。今年は飲食物で別のものを考えたい。場所代、アルバイト代、宿泊代、商売指導料を払っていくらかも残らない。
- ・平日の売上げ1万円ペースで店を閉めようかと思った。最後の土日で1日約30万円確保。

(13)M店

売上高：130万円（毎年同程度）

- ・小間料はインドアの見本市場としては安い。

(14)N店（飲食）

売上高：約85万円

客単価平均：450円

採算：確保

- ・今年も出店の予定。
- ・テーブルは店の前1m以上出してはいけないと言われたが、ほとんどが守っていない。なかには5m位出している店もあった。こういうことが許されるのであれば事前の説明会で注意しないでほしい。

(15)O店（飲食）

売上高：約100万円

客単価平均：約750円

採算：若干（数万円）残る。平日は赤字。

- ・出店料15万円に見合ったサービスがほしい。業者が営業しやすい状況をつくってほしい。たとえば、業者の車の進入が難しいのを改善することなど。
- ・今年の出店計画。今年を出す、その結果次第では止める。

(16)P店（食品）

売上高：30万円弱。

採算：確保

動機：宣伝

- ・売上げは年々落ち込む感じ。平日3日間はヒマ。
- ・今年も出店の意向だが、小間料7万円は高い。
- ・店のスペースは入り口が狭く奥が広いが、横長の方がよい（無理だろうが）。奥はがらんとしているのに入り口が込んでいるのを見て、客が入らない。

(17)Q店（食品・玩具）

売上高：40万円

採算：トントン

クジ（300円）の売上は約30万円では食品売上げ。半分賞品が残る。

(18)テレホンカード

売上高：60万円

単価：800円（オリジナルカード）

- ・年々売上げ低下。携帯電話の普及も影響。かつては1,000万円の売上げも（世界大会時）。

（以上）

[参考] 佐賀市内ホテルへの影響 〈主要ホテル・旅館ヒアリング結果〉

・ホテルA

旅行代理店が期間中の宿泊を抑えていたが、直前にかかなりのキャンセル。期間中1日か2日は満室になったが、バルーン大会によるものか分からない。

・ホテルB

期間中満室。バルーンの関係者（外国人が多い）が3～4泊。

・ホテルC

ほとんど満室だが連休前の平日は若干空くこともあった。外国人オブザーバーが毎年宿泊。

・ホテルD

ツインは満室。シングルは旅行代理店の直前のキャンセルがあり、空きがあった（シングルの稼働率7割程度）。競争が激しくなり、例年に比べ去年の11月は悪かった。観光客の問い合わせも例年よりは少なかった。11月はイベントのおかげで例年稼働率が上がっていたが、空港開設の影響でバルーン大会がなくなったらどうなるかと懸念。

・ホテルE

土日を含む2～3日は満室その他は空室があった。写真撮影の団体が中心。個人は10名内外。2～3日の連泊が多かった。

・ホテルF

ピーク（土日）は90%。満室にはならなかった。

平日60～70%の稼働率。選手（毎年宿泊の常連）、写真撮影目的の団体がほとんど。一般観光は少ないが、家族中心で1泊程度。

・ホテルG

直接的効果は余りない。個人客が最終日にわずか。ホームステイが浸透してきたようだ。関東、関西に企画を上げたことがあったが成約はなかった。かつてF-1の中島さんがきたときは影響が大きかった。ただし、今年は世界選手権大会ですでに予約で満室。

・ホテルH

クルーの団体5組で30人程度の宿泊。

一般観光客連泊（3～4泊）は15～16人。他はビジネス客。期間中大体満室。

来場者交通費推計

(1) JR料金

1) バルーンさが駅利用者

バルーンさが駅乗降客 (104,200人) ÷ 2 = 52,100人

(乗降客の全てが往復利用とみて、その半数が5日間の期間中の延べ利用者数とみる)

うち約2割の1万人を佐賀駅利用者と推定。

(アンケートから、約2割が佐賀市内より来場ということより、当駅利用者も同等の割合とみる)

利用者合計JR料金支出 (除く佐賀市からの来場者) = 平均利用料金 (往復) × 利用客数

・ 大人・小人加重平均推定JR利用料金 (往復) = 3,355円 (佐賀市からを除く)

(算出方法は下記 [注a])

・ 推定利用客数 = 52,100 - 10,000 = 42,100

3,355 (円) × 42,100 (人) = 14,125万円

2) 佐賀駅利用者

佐賀駅利用客数増 (約2万人 [注b]) のうち、1万人がバルーンさが駅への往復乗車とみる。

・ 佐賀駅～バルーンさが駅間往復利用料金支出

1万 (人) × {(2/2.8) × 400 (円) + (0.8/2.8) × 200} = 285.7 + 57.1 = 約343 (万円)

・ 佐賀駅～出発地間往復利用料金支出

佐賀駅利用客数増2万人のうち、残る1万人は出発地と佐賀駅との往復に利用したとみる。

3,355 (円) × 1万人 = 約3,355万円

3) 佐賀市内JR料金支払額

佐賀駅～バルーンさが駅利用者を除き、利用者の支出料金の半額は出発地において支払われたものと推定される。これから、佐賀市内で支出された額は、

(14,125 + 3,355) (万円) × 0.5 + 343 (万円) = 8,740 + 343 = 9,083 (約9,100万円)

以上より、JR利用客の佐賀市における投下JR費用は、推定 9,100万円

(佐賀市以外に投下されたJR費用は、(14,125 + 3,355) × 0.5 = 8,740 推定8,700万円)

[注a] 佐賀市以外からの来場者のJR利用料金 (往復・大人小人平均) の推定 (アンケートより)

・ 関東・関西地域からの往復費用 60,000円 ÷ 2人 = 30,000 (円/大人1人)

・ 中国地域からの往復費用 27,500円 ÷ 2人 = 13,750 (円/大人1人)

・ 九州地域 (除く佐賀市) からの往復費用 69,650円 ÷ 29人 = 2,388 (円/大人1人)

地域別来場者推定割合 (アンケート結果による)

関東・関西：3.3%、中国：2.5%、九州 (除く佐賀市)：72.5%、佐賀市：21.7%

地域加重平均JR利用往復料金推計 (除く佐賀市)

(30,000 × 0.033 + 13,750 × 0.025 + 2,388 × 0.725) × (1 / (1 - 0.217))

= (990 + 344 + 1,731) × 1.2771 = 3,914 (円/大人1人)

調査対象の家族・友人等グループ別平均人数は2.81人であった。これより、

来場者の構成員を大人2人に対し、子供（小人）0.8人と仮定する。

これから、来場者1人当たり往復料金は、

$$3,914 \times (2 / 2.8) + 0.5 \times 3,914 \times (0.8 / 2.8) = 3,354.9 \text{ (約3,355円 / 1人)}$$

[注 b] 佐賀駅におけるバルーン大会来場者の利用数 = 佐賀駅普通降車客の11月増分推定
(96年11月月間普通降車客数) - (10月・12月普通降車客数の平均)

$$19.4万 - 1/2 \times (18.1 + 16.6) = \text{約2万人}$$

アンケート JR利用来場者の出発地・料金支出等

回答者No.	出発地	グループ 人数	グループの タイプ	支出費用 回答額(円)	推定1人当り 大人料金(円)
#1	佐賀市近隣	1	S	1000	1000
#2	長崎	5	G	12000	12000
#3	佐賀	2	Fm	5000	2500
#4	福岡	4	Fm	4000	1600
#5	福岡	2	Fr	3500	3500
#6	佐賀	1	S	1500	1500
#7	長崎	2	Fm	8000	4000
#8	佐賀	2	Fm	2000	2000
#9	佐賀	5	Fm	4000	4000
#10	関西	3	Fr	40000	40000
#11	福岡	1	S	2000	2000
#12	長崎	2	Fm	5000	2500
#13	福岡	1	S	3000	3000
#14	佐賀市	4	Fm	1000	400
#15	佐賀	1	S	2800	2800
#16	福岡	2	Fr	2700	2700
#17	佐賀市近隣	4	Fm	2500	1250
#18	福岡	2	Fm	1000	1000
#19	佐賀市	2	Fr	400	400
#20	佐賀	5	G	5000	1000
#21	福岡	2	Fm	5000	2500
#22	中国	3	Fr	20000	20000
#23	佐賀市	2	Fm	800	400
#24	佐賀市	5	Fr	500	500
#25	福岡	2	Fm	7000	3500
#26	佐賀	5	Fr	3000	3000
#27	長崎	4	Fm	1000	1000
#28	中国	4	Fm	30000	7500
#29	佐賀市近隣	3	Fm	1000	500
#30	佐賀市近隣	4	Fm	1400	560
#31	佐賀	4	Fm	3000	1200
#32	福岡	2	Fm	7000	3500
#33	佐賀市	2	Fm	800	400
#34	関西	2	Fm	20000	20000
#35	佐賀市近隣	3	Fm	880	440
#36	大分	2	Fm	5000	2500
#37	佐賀市	3	Fr	1000	400
#38	佐賀	2	Fr	1000	1000
#39	佐賀	4	Fm	3000	1200
#40	佐賀市	4	Fm	400	400

・グループ平均=2.83人

・グループのタイプ：S：単独、Fm：家族、Fr：友人、G：その他団体

・大人1人当り料金は回答額と年齢・出発地・人数・タイプ・総費用から推定

(2)バス料金

利用 2 万 5 千人、シャトル・バス……………約500万円（資料=530万円による）

(3)タクシー料金

佐賀市内のタクシー総数は約500台あるが、バルーン大会では交通混雑のためかえって普段より稼働率が悪化したというのが実情(タクシー会社ヒアリング結果)。このため経済的に顕著なプラス効果は認められない。(佐賀駅～会場間片道約1,500円)

(4)公共輸送機関利用費

J R + バス輸送 ……………推定 9,600 万円

(5)高速道路料金（片道） ……………推定 3,600 万円

（佐賀大和 I C、多久 I C 両料金所での来場者推定支払額 [注 c]）

(6)来場者交通費佐賀市内・近郊推定投下額合計 ((4)+(5))

9,600+3,600=13,200万円 推定 1 億3,200万円

[注 c]

・佐賀大和インターチェンジ

土(祝)・日曜 2 日間来場者推定利用件数……………約13,200件
(佐賀大和 I C 退出総数18,900件(土、日の 2 日計)×0.7(全利用件数中定来場目的の推定割合))

平日利用推定件数 1 日平均1,400件、3 日間合計……………約4,200件

平日 3 日間来場者 1 日平均 (約7万人)÷祝日来場者 (約35万人)=0.2 (平日来場者数は祝日の 2 割)

平日来場者利用件数=祝日来場者利用件数 (退出10,106件×0.7=7,070件)×0.2=約1,400件

13,200+4,200件=17,400件 期間中利用件数合計 約17,400件

・多久 I C 利用

土日利用推定件数 ……………合計約5,900件
(土日曜日利用退出総数約8,400件×0.7 (推定来場目的)=約5,900件)

平日 3 日間平均1,180 (0.2×祝日利用数5,900件)×3=約3,500件

5,900+3,500=9,400件 期間中利用合計 約9,400件

・高速利用件数推定 佐賀大和17,400+多久9,400=26,800件

料金片道推定1,338円 (下記 [注 d])

26,800件×1,338円=3,586万円 (約3,600万円)

・高速道 (片道) ……………約3,600万円

佐賀大和 I C 利用 (退出) 件数と平均料金推定

主要入口 I C	1 日平均		構成比	増加件数 (率)	料金
	(10月)	(11月)			
福岡	461件	480件	[17%]	+19件 (+4.1%)	1,550円
太宰府	1,331	1,384	[49%]	+53 (+4.0%)	1,250
鳥栖第二	568	596	[21%]	+28 (+4.9%)	800
長崎多良見	326	357	[13%]	+31 (+9.5%)	2,250

[注 d]

11月の1日平均利用件数入口 (前月比増加の主要入口) 別構成比による加重平均料金

1,550×0.17+1,250×0.49+800×0.21+2,250×0.13=264+613+168+293=1,338円

佐賀市以外での来場者消費支出

1) 宿泊料金

佐賀市内以外の宿泊者

アンケートから、宿泊率1割より、実質来場者53万人から宿泊者は5.3万人。宿泊者のホテル・旅館形態比率約6割（他は知人宅等）より、ホテル・旅館の宿泊者は3.1万人となる。佐賀市以外の宿泊率44%として、 $3.1万 \times 0.44 = 1.4$ 万人が佐賀市以外での宿泊者になる。

1人平均2.2泊、1人当たり1泊5千円として、

$$1.4万 \times 2.2泊 \times 0.5万円 = 1.54億円$$

宿泊料金 …………… 1億5,400万円

2) 飲食料金

佐賀市内以外の宿泊者の飲食料金

1人1食1,000円とし、平均2泊として、佐賀市外で4回飲食（例えば、ホテル到着日夕、翌日バルーン大会見学日朝・夕、出発日朝など）したとして、 $1,000円 \times 4回 \times 1.4万人 = 約5,600万円$

飲食料金 …………… 約5,600万円

3) JR料金

バルーンさが駅～出発地往復料金支出

利用者合計JR料金支出（除く佐賀市からの来場者）= 平均利用料金（往復）×利用客数

大人・小人加重平均推定JR利用料金（往復）= 3,355円（算出方法は p22 [注 a] 参照）

$$推定利用客数 = 52,100 (\text{バルーンさが駅実質利用客数}) - 10,000 (\text{推定佐賀駅から利用}) = 42,100人$$

$$3,355 (\text{円}) \times 42,100 (\text{人}) = 14,125万円 (\text{佐賀市以外での来場者JR往復支出合計})$$

佐賀駅～出発地間往復利用料金支出

佐賀駅利用客数増2万人のうち、1万人は出発地と佐賀駅との往復に利用したとみる（p22）。

$$3,355 (\text{円}) \times 1万人 = 約3,355万円$$

佐賀市以外に投下されたJR費用は片道分とみて、 $(14,125 + 3,355) \times 0.5 = 8,740$ 推定8,700万円

・JR料金支出 …………… 約8,700万円

4) 高速料金

復路片道料金を支出とみる。

高速利用件数推定 佐賀大和17,400 + 多久9,400 = 26,800件

料金片道推定1,338円（p24 [注 d] 参照）

$$26,800件 \times 1,338円 = 3,586万円 (\text{約}3,600万円)$$

・高速道料金 …………… 約3,600万円

5) ガソリン代支出

佐賀市内・近隣以外での関連車両ガソリン代支出は、推定約8,000万円

（対象車両片道延べ約500万キロの往復距離に対し4/5の確率 = $1,000万キロ \times 10円 \times 4/5 = 8,000万円$ ）

・ガソリン代 …………… 約8,000万円

6) 合計

（宿泊費）+（飲食費）+（JR料金）+（高速料金）+（ガソリン代）

$$1億5,400万円 + 5,600万円 + 8,700万円 + 3,600万円 + 8,000万円 = 4億1,300万円$$

佐賀市以外での来場者消費支出合計 …………… 約4億1,300万円

[Ⅳ] 当初支出推計基礎データ

主催者支出大会主催者収支状況

(1) 運営委員会収支

・95年度決算

佐賀市補助金（補正後）	6,390万円（うち県の補助金 600万円を含む）
その他共収入計	6,982万円
支出計	6,716万円
（うち対組織委員会補助金	1,190万円（「海外対策費」より）
残額（繰り越し）	266万円

・96年度決算見込み

96年度市補助金（補正後）	6,400万円（うち県の補助金 1,000万円を含む）
その他共収入済額	6,846万円
支出済額	6,593万円
（うち会場設営費2,452万円、海外対策費 1,495万円、広告費、1,211万円）	
残額（繰り越し）	252万円

(2) 憩いの広場実効委員会収支（95年度）

収入済額	6,839万円
（うち市補助金	4,790万円）
支出済額	6,129万円
（うち事業費	5,723万円）
繰り越し	710万円

(3) 佐賀市大会関係費支出（95年度）

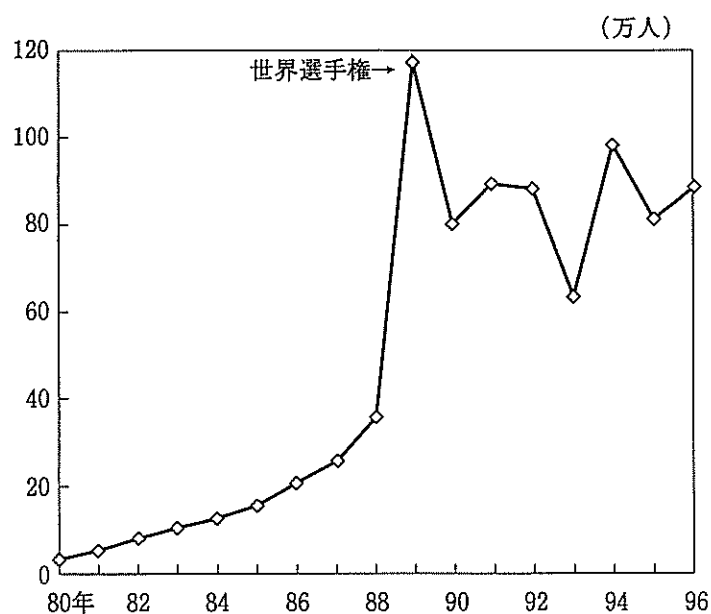
95年度熱気球大会開催費	1億6,185万円
主な事業費内訳	
広告宣伝事業	652万円
観客対策事業	3,730万円
（うちJR臨時停車駅負担金	1,970万円）
運営費補助	6,390万円
熱気球世界選手権視察及び大会旗引継ぎ	220万円
憩いの広場実効委員会費補助金	4,790万円
	（小計15,782万円）
（支出財源のうち県補助金	600万円）

佐賀におけるバルーン大会観客動員数推移

	(大会名)	(観客動員数)
1978	バルーン・フェスタ・イン九州 (開催地：甘木)	—————
1979	バルーン・フェスタ・イン九州 (開催地：甘木)	—————
1980	バルーン・フェスタ・イン九州	3万人
1981	バルーン・フェスタ・イン佐賀	5
1982	バルーン・フェスタ・イン佐賀	8
1983	バルーン・フェスタ・イン佐賀	10
1984	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	12
1985	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	15
1986	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	20
1987	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	25
1988	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	35
1989	第9回佐賀熱気球世界選手権	117
1990	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	80
1991	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	89
1992	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	88
1993	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	63
1994	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	98
1995	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	81
1996	佐賀インターナショナル・バルーン・フェスタ	88

(出所) SAGA I nternational Balloon Fiesta Official Photo Guide Book (1996年3月31日)
熱気球大会佐賀運営委員会編 (96年については佐賀市資料)

観客動員数推移



開催日午前午後別観客動員数

95年観客動員数		81万4,000人	
	午前	午後	計 (人)
11月22日 (水)	48,000	61,000	109,000
23日 (木, 祝)	15,000	76,000	91,000
24日 (金)	6,000	21,000	27,000
25日 (土, 祝)	100,000	152,000	252,000
26日 (日)	156,000	179,000	335,000
合 計	325,000	489,000	814,000
96年観客動員数		88万3,000人	
	午前	午後	計 (人)
11月20日 (水)	20,000	30,000	50,000
21日 (木)	25,000	30,000	55,000
22日 (金)	30,000	70,000	100,000
23日 (土, 祝)	176,000	180,000	356,000
24日 (日)	150,000	172,000	322,000
合 計	401,000	482,000	883,000

(出所) 佐賀市資料

96年実質来場者 (重複調整) 推定

(午前・午後別観客動員数)

20日午前 2 万人	純計 2.0 万人
午後 3 万人 (うち1.5万人再来)	+ 1.5
21日午前2.5万人 (うち0.75万人再来)	+ 1.75
午後 3 万人 (うち1.5万人再来)	+ 1.5
22日午前 3 万人 (うち0.9万人再来)	+ 2.1
午後 7 万人 (うち3.5万人再来)	+ 3.5
23日午前17.6万人 (うち5.3万人再来)	+12.3
午後18万人 (うち9.0万人再来)	+ 9.0
24日午前15万人 (うち4.5万人再来)	+10.5
午後17.2万人 (うち8.6万人再来)	+ 8.6
	実質 計52.75万人
	推定約53万人

(注)

午前の部来場者の3割が前日までの重複来場者とみる。また、午後の部の来場者の5割が午前の部ないし、前日までの来場者と重複していると仮定。(主観確率)

なお、重複者の割合としては、JRバルーンさが駅乗降客数、シャトルバス輸送人員数、高速道路出口利用車両台数、駐車場収容能力とその利用状況ヒアリング等を勘案し、主観的に推定確率を置いた。

96年競技参加者数1450名 (95年1450名)

選手1000名 (うち外国選手役140名) (95年1000名うち外国選手役140名)

役員 250名 (うち外国役員役74名) (95年役員約250名うち外国役員63名)

スタッフ約200名 (95年約200名)

臨時施設・観客輸送状況等

1) 臨時駐車場	台数
1996年11月20日(水)～24日(日)	<4,250>
・嘉瀬川河川敷一般駐車場	4,000
・久保田駅	200
・森林公園 (大型バス専用)	[50]
11月23日(祝)、24日(日)のみ利用可能	<2,450>
・王子製紙グラウンド	300
・嘉瀬小学校	300
・競馬場跡地グラウンド	700
・八戸溝低床公園	300
・新栄小学校	300
・佐賀市役所駐車場	550
駐車可能最多台数 (23, 24日各1日。除く大型バス)	<6,650>
期間中駐車可能延べ台数 (除く大型バス)	<25,900>
($4,200 \times 5 + 2,450 \times 2 = 21,000 + 4,900 = 25,900$)	
推定利用者数 (1台平均3人として $3 \times 25,900 = 77,700$)	約7.8万人
・大型バス (1台当たり乗客数60人)	
推定最多利用者数 $60人 \times 50台 \times 5日 = 15,000人$	最高1.5万人
オートキャンプ (11月19日(火)～24日(日))	延べ約800名
90区画	1泊 4,000円
利用者数延べ837名186組	入村料 74.4万円
ホテルトレイン (11月23日夜～24日早朝)	
(1泊朝食付き、佐賀駅→バルーン佐賀駅片道)	税込み3,800円
	利用可能人員 112人
バルーン佐賀駅 (11月20日～24日)	
	乗降人員 10.4万人
佐賀駅→バルーン佐賀駅	片道大人 200円
期間中の臨時列車62本(2日間23、24日)(95年は3日間 93本)	
臨時停車419本(95年420本)	
シャトルバス	
96年輸送人員	約2.6万人
運行本数	輸送人員 収入
95年400.5本	95年16,703人 361.9万円
96年385.5本	96年24,591人 526.9万円
料金 (片道、駐車場→バルーン会場間)	
競馬場グラウンド～八戸溝低床公園→会場	大人250円、小人130円
新栄小学校→会場	大人200円、小人100円

駐車場等利用者数

乗用車利用者数（1日1回転として）	7.8万人
大型バス利用者数	1.5万人
JRバレーン佐賀駅利用者数	5.2万人（乗降客数÷2）
シャトルバス利用者数	1.3万人（輸送人員÷2）
合計利用者数	推定 15.8万人

長崎自動車道利用件数

・佐賀大和インターチェンジ	退 出	進 入	総 数
95年11月			
25日(土)	8,976	8,519	17,495
平常の土曜日	(6,500)	(6,500)	
26日(日)	8,622	8,896	17,518
平常の日曜日	(6,000)	(6,200)	
96年11月			
23日（土、祝）	10,106	10,586	20,692
平常の土曜日	(6,680)	(6,480)	
増加件数(概数)	+3430	+4100	
24日(日)	8,793	8,824	17,617
平常の日曜日	(6,440)	(6,450)	
増加件数（概数）	+2350	+2370	
・多久インターチェンジ	退 出	進 入	総 数
95年11月			
25日(土)	3,270	2,906	6,176
26日(日)	3,001	2,908	5,909
96年11月			
23日（土、祝）	4,695	3,792	8,487
平常の土曜日	(3,110)	(2,820)	
増加件数(概数)	+1590	+970	
24日(日)	3,681	3,621	7,302
平常の日曜日	(3,290)	(3,300)	
増加件数（概数）	+ 390	+320	
（出所）日本道路公団佐賀管理事務所			
・佐賀大和、多久両 I C 利用車両増加件数			
23日（土、祝）	3,430+1,590=5,020		
24日（日）	2,350+ 390=2,740		
2日間合計	+7,760（件）		

[V] 佐賀市産業連関表(90年)の推計方法

- (ステップ1)・佐賀県産業連関表(90年)生産者価格評価表(32部門)より、下記10部門に集約した県の産業連関表を求める。
- (ステップ2)・上記10部門産業連関表より、列部門別内生部門構成比を求める。ただし、製造業についてはもとの32部門ベースの業種別内生部門構成比を求める。
- (ステップ3)・佐賀市の製造業の出荷ベース業種別構成比を求める(94年工業統計表市町村編より)。この製造業構成比でウェイトづけすることで、32部門ベース製造業14業種の内生部門構成比を1部門に統合し、これを佐賀市の当該推計値とする。
- (ステップ4)・10部門に集約した列部門別内生部門構成比のうち、「市町村民所得推計結果報告書」より、鉱業部門は佐賀市の業種別生産からみて寄与ゼロとして削減。残る9部門を佐賀市ベースの産業連関表の内生部門構成比とする。このことは、製造業以外の8部門(農林水産・建設・第3次産業6業種)については各内生部門構成比が市ベースと県ベースとで変わらないということを想定している。
- (ステップ5)・「市町村民所得推計結果報告書」(90年度)より、対象とする9部門での佐賀市の産業別生産額と純生産額を用い、(ステップ4)で得られた9部門別内生部門構成比より、佐賀市産業連関表を算出する。すなわち、純生産額=付加価値であることから、内生部門(=中間投入)の各部門別総額を求め、構成比に応じて投入額の実額推計値を算出。
- ただし、第3次産業については市内生産額のみで純生産額のデータがないため、県の産業別生産額/純生産額比率を求め、市の生産額を推定する。
- (ステップ6)・得られた90年佐賀市産業連関表より、9部門の投入係数表を求め、これよりさらに、逆行列係数表を求める。

(1) 佐賀県90年産業連関表(32部門)を10部門に集約

これは、「市町村民所得推計結果報告書」(佐賀県)の市町村内純生産(産業別)の分類に合わせるためである。

32部門	10部門(()内は対応する32部門)
(1) 農林水産業	① 農林水産業(1)
(2) 鉱業	(② 鉱業(2))
(3) 食料品	③ 建設業(17)
(4) 繊維製品	④ 製造業(3~16)
(5) パルプ・紙・木製品	⑤ 卸・小売業(20)
(6) 化学製品	⑥ 金融保険・不動産業(21~22)
(7) 石油・石炭製品	⑦ 運輸・通信業(23~24)
(8) 窯業・土石製品	⑧ 電気・ガス・水道業(18~19)
(9) 鉄鋼	⑨ 公務(25)
(10) 非鉄金属	⑩ サービス(26~32)
(11) 金属製品	
(12) 一般機械	
(13) 電気機械	
(14) 輸送機械	
(15) 精密機械	
(16) その他の製造工業製品	
(17) 建設	
(18) 電力・ガス・熱供給	
(19) 水道・廃棄物処理	
(20) 商業	
(21) 金融・保険	
(22) 不動産	
(23) 運輸	
(24) 通信・放送	
(25) 公務	
(26) 教育・研究	
(27) 衣料・保健・社会保障	
(28) その他の公共サービス	
(29) 対事業所サービス	
(30) 対個人サービス	
(31) 事務用品	
(32) 分類不明	

(注)

統合した10部門のうち鉱業については、佐賀市における生産額がゼロであることから削除し、最終的な部門数を9部門とした。製造業の部門統合においては工業統計表(市町村編)により、出荷額によるウェイトをかけて統合した。

(2) 内生部門の中間投入構成比を算出

作成した県の9部門産業連関表(90年)の列部門の内生部門計を除数とし、各投入額を割ることによって中間投入構成比を求める。これは、佐賀市レベルでの産業間の投入構造が不明であるため、生産額を除数とする投入係数を直接求める代わりに、市内の産業部門別中間投入の構成が対応する県レベルの中間投入(内生部門)構成と変わらないという前提をおいて算出するものである。製造業については市ベースの出荷額によるウェイト付け(下表)により14業種を1部門に統合。

(3) 列部門別生産額と中間投入額を割り当て、佐賀市の産業連関表を推計

「市町村民所得推計結果報告」より、90年度の佐賀市の産業部門別生産額と純生産額(付加価値)9部門に割り当てる。第3次産業については、純生産額のみで生産額のデータがないため、県の産業連関表より、生産額と純生産との比率を求め、これにより市の第3次産業の各部門の生産額の推計値を求める。したがって、第3次産業については、県と市の対応する産業の投入係数が等しくなることになる。

佐賀県および佐賀市の製造業業種別ウェイト(出荷額構成比)

	佐賀市	佐賀県
・食料品	0.323	0.261
・繊維製品	0.009	0.024
・パルプ・紙・木製品	0.081	0.103
・化学製品	0.020	0.056
・石油・石炭製品	0.000	0.002
・窯業・土石製品	0.015	0.076
・鉄鋼	0.008	0.012
・非鉄金属	0.000	0.015
・金属製品	0.123	0.091
・一般機械	0.074	0.058
・電気機械	0.181	0.138
・輸送機械	0.001	0.035
・精密機械	0.003	0.000
・その他の製造工業製品	0.162	0.130
製造業計	1.000	1.001

(資料) 佐賀市：平成6年工業統計表市町村編
佐賀県：平成2年佐賀県産業連関表(32部門)

推計 佐賀市産業連関表 (90年)

単位：千円

	農林水産	建設	製造業	卸・小売	金融保不動	運輸・通信	電ガス水道	公務	サービス	内生部門計	最終需要計	産出額
農林水産	2,369,653	311,717	14626,514	31,358	100	0	0	3,127	1,714,670	19,057,139	-6,552,022	12,505,117
建設	34,098	307,133	485,167	809,079	2,026,992	206,445	618,366	646,302	1,158,026	6,291,607	71,510,096	77,801,703
製造業	2,363,739	25,657,075	49,839,532	5,976,690	1,308,136	3,882,916	652,658	4,074,718	37,695,384	131,450,849	4,207,470	135,658,319
卸・小売	843,929	4,804,112	6,838,054	2,701,607	466,947	2,860,004	148,783	1,084,442	9,933,699	29,681,578	118,041,404	147,722,982
金融保不動	465,717	1,599,843	2,550,914	10,078,079	7,990,602	1,737,641	1,212,057	189,113	6,028,623	31,852,588	49,804,569	81,657,158
運輸・通信	533,436	4,877,457	4,825,769	10,307,196	1,145,600	2,777,162	464,359	2,320,408	7,423,072	34,674,457	2,355,282	37,029,739
電ガス水道	54,968	953,488	3,867,005	3,311,777	422,268	615,983	520,403	1,472,387	6,826,059	18,044,339	-4,212,492	13,831,848
公務	0	0	0	0	0	0	0	0	468,669	468,669	46,183,233	46,651,902
サービス	81,320	7,329,938	9,285,850	10,056,354	4,598,976	5,502,714	1,985,820	2,692,028	15,134,737	56,667,737	173,274,497	229,942,234
内生部門計	6,746,860	45,840,763	92,318,804	43,272,140	17,959,620	17,582,865	5,602,446	12,482,525	86,382,940	328,188,965	454,612,037	782,801,001
純生産額	5,758,257	31,960,940	43,339,515	104,450,842	63,697,537	19,446,786	8,229,310	34,168,842	143,559,257			
産出額	12,505,117	77,801,703	135,658,319	147,722,982	81,657,158	37,029,739	13,831,848	46,651,902	229,942,234			

(注) 平成2年佐賀県産業連関表、平成2年度「市町村民所得推計結果報告書」(佐賀県)等より推計「分類不明」はサービス部門に含む

推計投入係数表 (佐賀市、90年)

	農林水産	建設	製造業	卸・小売	金融保不動	運輸・通信	電ガス水道	公務	サービス
農林水産	0.189495	0.004007	0.107819	0.000212	0.000001	0.000000	0.000000	0.000067	0.007457
建設	0.002727	0.003948	0.003576	0.005477	0.024823	0.005575	0.044706	0.013854	0.005036
製造業	0.189022	0.329775	0.367390	0.040459	0.016020	0.104859	0.047185	0.087343	0.163934
卸・小売	0.067487	0.061748	0.050406	0.018288	0.005718	0.077235	0.010757	0.023245	0.043201
金融保不動	0.037242	0.020563	0.018804	0.068223	0.097856	0.046926	0.087628	0.004054	0.026218
運輸・通信	0.042657	0.062691	0.035573	0.069774	0.014029	0.074998	0.033572	0.049739	0.032282
電ガス水道	0.004396	0.012255	0.028505	0.022419	0.005171	0.016635	0.037624	0.031561	0.029686
公務	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000	0.000000	0.002038
サービス	0.006503	0.094213	0.068450	0.068076	0.056321	0.148603	0.143569	0.057705	0.065820
計	0.539528	0.589200	0.680524	0.292928	0.219939	0.474831	0.405040	0.267567	0.375672

逆行列表 (佐賀市、90年)

	農林水産	建設	製造業	卸・小売	金融保不動	運輸・通信	電ガス水道	公務	サービス
農林水産	1.2928014	0.0912532	0.2319031	0.0182262	0.0109170	0.0382035	0.0263259	0.0279714	0.0548740
建設	0.0098838	1.0123028	0.0134962	0.0111521	0.0293777	0.0128310	0.0526350	0.0185393	0.0114013
製造業	0.4377802	0.6351895	1.7309242	0.1268206	0.0751499	0.2714190	0.1819654	0.2017964	0.3342451
卸・小売	0.1231919	0.1207285	0.1217652	1.0401303	0.0189123	0.1154382	0.0404419	0.0480332	0.0770125
金融保不動	0.0814893	0.0648335	0.0711542	0.0935931	1.1176047	0.0841291	0.1205938	0.0250451	0.0559745
運輸・通信	0.0912117	0.1154422	0.0965916	0.0914879	0.0271256	1.1131172	0.0619520	0.0732856	0.0638873
電ガス水道	0.0261853	0.0430586	0.0625820	0.0337503	0.0121458	0.0374915	1.0541471	0.0448153	0.0482165
公務	0.0001519	0.0003811	0.0003424	0.0002277	0.0001702	0.0004439	0.0004095	1.0002083	0.0022893
サービス	0.0745067	0.1869805	0.1679728	0.1117375	0.0834944	0.2177877	0.2009281	0.1021892	1.1231812

九州地域産業連関表逆行列表（13部門、90年）

	農林水産	鉱業	製造業	建設	電ガス水道	商業	金融保険
農林水産	1.17822606	0.03272841	0.16403122	0.05998388	0.02143655	0.01370841	0.01137385
鉱業	0.01216893	1.01733572	0.04737475	0.03494527	0.11205160	0.00566969	0.00398895
製造業	0.42130280	0.31415812	1.76068729	0.60917799	0.21429311	0.13735456	0.11235682
建設	0.00656269	0.01148115	0.01005778	1.00794126	0.02257597	0.00801144	0.00540440
電ガス水道	0.01951677	0.05693954	0.05073973	0.02989622	1.03996380	0.02188951	0.01174365
商業	0.06588596	0.06859741	0.10273582	0.09981940	0.03916594	1.02869645	0.01687118
金融保険	0.05590062	0.07926702	0.04385734	0.03703723	0.04621262	0.04820724	1.07838953
不動産	0.00825191	0.02040712	0.01540506	0.01456368	0.01631910	0.04836135	0.02747184
運輸	0.05565296	0.06463293	0.06542119	0.05630704	0.03930493	0.03721406	0.02497233
通信放送	0.00600962	0.01392750	0.01043372	0.01225278	0.01097128	0.02514467	0.02246676
公務	0.00043599	0.00096558	0.00075332	0.00108017	0.00066286	0.00058081	0.00052745
サービス	0.06826038	0.18992836	0.14221605	0.14991647	0.16774413	0.10348726	0.12086411
分類不明	0.01186387	0.02627447	0.02049868	0.02939266	0.01803725	0.01580442	0.01435253

	不動産	運輸	通信放送	公務	サービス	分類不明
農林水産	0.00556332	0.02099318	0.01129185	0.02373245	0.04170882	0.07435390
鉱業	0.00273994	0.00801377	0.00486884	0.01059449	0.01264966	0.02445858
製造業	0.05563610	0.21535499	0.10944494	0.24475607	0.35725730	0.76684157
建設	0.04044416	0.01125630	0.00423095	0.01049968	0.00799855	0.00814339
電ガス水道	0.00687267	0.02605013	0.02122789	0.04420871	0.03851518	0.05204586
商業	0.01017724	0.03658664	0.01834507	0.03581395	0.06578411	0.12933023
金融保険	0.06262825	0.05849499	0.01796483	0.01580972	0.03034777	0.05190668
不動産	1.01154355	0.03044000	0.01242805	0.00780548	0.01958434	0.02584007
運輸	0.00686978	1.13499538	0.02932440	0.03832858	0.03232173	0.06683428
通信放送	0.00293505	0.01360105	1.04317670	0.01756828	0.02161214	0.01544838
公務	0.00067672	0.00059011	0.00037222	1.00034036	0.00063248	0.03730835
サービス	0.03619840	0.11277679	0.14622130	0.11956964	1.11298144	0.17483522
分類不明	0.01841449	0.01605760	0.01012852	0.00926157	0.01721054	1.01520534

(出所) 九州通産局「九州地域産業連関表（13部門、90年）」より作成

1996佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ
主催者協力調査

佐賀大学地域経済研究センター

来場者アンケート

年齢層	回答者						男	女
	(10代	20代	30代	40代	50代	60代以上)		

- (1) どちらからいらっしゃいましたか
(関東 関西 中国 四国 九州 沖縄)
九州の方(佐賀、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島)
佐賀県内の方
(佐賀市、佐賀市近隣、その他の地区(車で1時間以上の距離))
- (2) 何人のグループですか
(1人、2人、3人、4人、5人以上)
- (3) どのようなグループですか
(家族 友人 その他)
- (4) 主にどのような交通手段でこられましたか(複数回答可)
(遠隔地の飛行機、新幹線、フェリー等の利用を除く)
(JR、 バス 自家用車 レンタカー(佐賀市内 市外)
バイク 自転車)
- (5) 県外から来られた方
(日帰り、宿泊)
宿泊の方(複数回答可)
(佐賀市内、佐賀市近隣、佐賀県内、県外)
宿泊形態
(ホテル・旅館(泊)、ホテルトレイン(泊)、
民宿(泊)、知人宅(泊)、その他(泊))

(6) 今回のバルーンフェスタ見学に際し、(ご自身またはご家族で)

どの程度の総費用(予算)が必要と見込まれていますか

- | | |
|----------------|------------------|
| (a) 5千円未満 | (g) 5万円以上 6万円未満 |
| (b) 5千円以上1万円未満 | (h) 6万円以上 7万円未満 |
| (c) 1万円以上2万円未満 | (i) 7万円以上 8万円未満 |
| (d) 2万円以上3万円未満 | (j) 8万円以上 9万円未満 |
| (e) 3万円以上4万円未満 | (k) 9万円以上 10万円未満 |
| (f) 4万円以上5万円未満 | (l) 10万円以上 |

(7) かかった(かかる予定の)費用で主な支出項目は何ですか

- | | | |
|-------------|----|-----------------|
| (a) 宿泊費 (約 | 円) | |
| (b) 交通費 (約 | 円) | |
| (c) 飲食費 (約 | 円) | |
| (d) お土産代 (約 | 円) | |
| (f) その他 (約 | 円) | (具体的な用途例
など) |

(8) お土産の購入場所

- | | | |
|------------|------------|----------|
| (a) バルーン会場 | (b) 佐賀市内商店 | (c) ホテル内 |
| (c) その他(市内 | 市外) | |

(9) お土産の種類(複数回答可)

- (a) 菓子類 (b) 焼き物 (c) 酒 (d) 特産品 (e) バルーングッズ (f) その他

(10) 代金を支払い飲食した(予定の)場所または弁当の購入場所

- | | | | |
|---------------|----|--------------|----|
| (a) バルーン会場(回数 | 回) | (b) 佐賀市内(| 回) |
| (c) 列車内(| 回) | (d) その他(具体的に |) |

(11) バルーンフェスタ見学後はどうされる予定ですか

- | | | |
|--------------|----------|----------------------|
| (a) 帰宅 | (b) 市内観光 | (c) 有田・唐津・吉野ヶ里など県内観光 |
| (d) 長崎など県外観光 | | |

ご協力大変ありがとうございました。粗品をお受け取り下さい。

アンケート集計

性別	計	%
女	129	56
男	101	44
総計	230	100

年齢層	計	%
10代	5	2
20代	66	27
30代	67	28
40代	33	14
50代	27	11
60代以上	44	18
総計	242	100

どこから	計	%
関東	4	2
関西	4	2
中国	6	2
九州	230	94
総計	244	100

九州の方	計	%
佐賀	118	51
福岡	73	32
長崎	25	11
熊本	8	3
大分	4	2
鹿児島	2	1
総計	230	100

佐賀県内	計	%
佐賀市	53	47
佐賀市近隣	28	25
その他の地区	32	28
総計	113	100

何人	計	%
1人	15	6
2人	110	45
3人	53	22
4人	38	16
5人以上	27	11
総計	243	100

関係	計	%
家族	159	70
友人	53	23
その他	16	7
総計	228	100

交通手段	計	%
JR	64	26.6
バス	9	3.7
自家用車	173	71.8
バイク	2	0.8
自転車	5	2.1
タクシー	1	0.4
総計	241	

日帰宿泊	計	%
宿泊	18	11
日帰り	151	89
総計	169	100

宿泊場所	計	%
佐賀市内	10	56
佐賀市近隣	4	22
佐賀県内	2	11
佐賀県外	2	11
総計	18	100

宿泊形態	計	%
ホテル・旅館	11	61
知人宅	3	17
オートキャンプ	1	6
その他	3	17
総計	18	100

泊	計	%
1泊	6	46
2泊	4	31
3泊	1	8
5泊	1	8
6泊	1	8
総計	13	100

総費用	計	%
5千円未満	124	51.2
5千円以上1万円未満	67	27.7
1万円以上2万円未満	35	14.5
2万円以上3万円未満	7	2.9
3万円以上4万円未満	1	0.4
4万円以上5万円未満	1	0.4
5万円以上6万円未満	3	1.2
7万円以上8万円未満	3	1.2
9万円以上10万円未満	1	0.4
総計	242	100.0

土産場所	計	%
バルーン会場	179	98
佐賀市内商店	4	2
その他(市内)	1	1
その他(市外)	4	2
総計	183	

土産種類	計	%
菓子類	75	41
焼き物	1	1
酒	12	7
特産品	78	43
バルーングッズ	55	30
その他	13	7
総計	181	

飲食場所/回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	(空白)	総計	%
バルーン会場	91	28	18	8	3	1	37	186	88
佐賀市内	11	3	0	0	0	1	0	15	7
列車内	3	0	0	0	0	0	0	3	1
その他	1	0	0	0	0	0	11	12	6
総計	106	31	18	8	3	2	48	212	

見学後	計	%
帰宅	211	90
市内観光	10	4
有田・唐津・吉野ヶ里など県内観光	10	4
長崎など県内観光	4	2
総計	235	100

宿泊者アンケート

	1993	1994	1995	1996
サンプル数		135	95	18

1. 年代別 数字は百分率

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
1993	5	25	22	16	16	16
1994	6	22	29	10	18	12
1995	7.4	13.7	20	28.4	18.9	10.5
1996		44	22	6	17	11

2. 地域別

	北九州	西九州	中南九州	中国四国	関西	関東	その他
1993	21	9.9	7.5	11.1	18.5	27.2	4.9
1994	13.6	15.2	15	15	20.5	15.2	5.5
1995	15.8	10.5	17.9	12.6	11.6	15.8	13.7
1996	九州	44		17	22	17	

3. 個人又はグループ

	1人	2人	3人以上
1993		40.7	38.3
1996	6	50	44

4. 佐賀までの交通機関

	JR	自家用車	その他	無回答
1993	45.7	25.9	28.4	
1994	34.8	47	18.2	
1995	54.7	33.7	17.9	
1996	37.5	50	5.6	11.1

5. 佐賀への訪問回数

	初めて	2回目	3回以上	その他
1993	34.6	17.3	46.9	1.2
1994	33	17	49	1
1995	27.4	22.1	46.3	4.2

6. 佐賀の印象度

	良い	普通	悪い	無回答
1993	46	50		
1994	40.2	54.5		
1995	46.3	45.3	3.2	5.3

①みどころ

	多くある	普通	殆どない	わからない	無回答
1993	11	50	27		12
1995	16.8	60	4.2	11.6	7.4

②ホテルなどのサービス

	良い	普通	悪い	わからない	無回答
1993	54	37	0		10
1994	56	37	1		6
1995	50.5	42.1	0	2.1	5.3

7. 買い物など経済的消費効果

①宿泊、食事など

	～1万円	1～2万円	2～3万円	3万円以上	無回答
1993		13.6	43.2	34.6	8.6
1994		18	53	25	5
1995		20	36.8	31.6	11.6
1996	22.2	22.2	16.7	11.1	27.8

②土産物など

	0円	5千円以内	1万円以内	2万円以内	2万円以上	無回答
1993		26	22		24	
1994	6	18.2	36.5	19.7	11	8.6
1995	9.5	21.1	24.2	10.5	17.9	16.8
1996		16.7	22.2			61.1

③今回の旅行の総予算

	～2万円	2～5万円	5～10万円	10万円～	無回答
1994		47	31.1		
1995		31.6	35.8	22.1	10.5
1996	50	16.7	33.3		

宿泊	佐賀市内	佐賀市近隣	佐賀県内	佐賀県外
ホテル・旅館	44.4	11.1	5.6	0
知人宅	0	5.6	0	11.1
その他	11.1	5.6	5.6	0

④佐賀で買いたい土産物

	お菓子	焼き物	海苔お茶など	その他	無回答
1993					
1994	55.7	28.9			40
1995	47.3	24.5	19	9.2	
1996	33.3		50	44.4	16.7

1996年は複数回答
「海苔お茶など」に「酒」「特産品」
「その他」に「バルーングッズ」「その他」

8. 再び佐賀に来ますか

	来たい	来たくない	わからない	無回答
1993	75.3	0	22.2	2.5

9. ついでに行きたい観光地

①県内

	吉野ヶ里	唐津	呼子	有田	嬉野温泉	武雄温泉	祐徳稲荷	その他	ない	無回答
1993										
1994	22	15	10	19	18	7	6	3		
1995	29.5	20	12.6	30.5	18.9	8.4	5.3	2.1	20	14.7

②県外

	福岡	太宰府	ハウステンボス	長崎	平戸	その他	ない	無回答
1994	8.4	8	38.6	21.1	14.9	7	6	16
1995	8.4	2.1	30.5	17.9	6.3	2.1	38.9	14.7

10. バルーンフェスタ後の予定

	見に行く	真っ直ぐ帰る	ついでに見てまわる	無回答
1995	46.3	18.9	21.1	13.7
1996	33.3	44.4	16.7	5.6

1996年は「見に行く」は「県内・県外観光」
「ついでに見に行く」は「市内観光」